

軍艦鳥海清國境法越冬
二月
関スル諸報告

リ空車ニ非スレハ通セズ所アルヲ以テ交通一層ノ困難ヲ感シ馬車旅行
ニ約五時間ヲ費セリ

北戴河海濱ハ当地方ニ於テ最良避暑地ナリ以テ外人ノ住宅多ク
為メニ電信局ノ設テアリ夏季ニ際シテハ汽船ノ必受着アル所ナリ北戴
河停車場所在地ハ海濱ヲ距ル約我一陸里半ニシテ寂寥多ク一寒村
ニ過キス隣村撥道(注)アカウト(注)ニ稍ヤ大ナル支那風旅宿ニ三
戸アリ

秦皇島附近ノ通路ハ右ノ如クナルヲ以テ最近停車場ニ至ルニ約二時間
ヲ要シ不便云フ可ラスト云々氏猶一步進ニテ鉄道線路(注)過ノ模様ヲ
案スルニ該線路ハ海軍海面カニ六二号ヲ記載ノ如クナラス濼州(注)ニ至リ
ヨリ約東ニ南ニ走リ石門(注)ニ至リ安山(注)ニ至リ昌黎(注)ニ至リ
ニリ(注)ニ出テ(海軍海面カニ六二号)ニハ昌黎ヲ經過セズ(約北東ノ方向
ニ轉シヨウ守岩(注)リヨリニヨリエト)ヲ過キ洋河ヲ渡リテ北戴河ニ至リ湯

母

重

海

目

河ヲ通過シタル後ハ秦白王島ノ北方約二〇〇〇米突ニ當ル地点ヲ過キ
 近キ秦白王島ヲ望ミツノ山海關ニ至ルモノナルヲ以テ若シ該地ト是(オ)ニ面
 中ノB(ニ)及停車場ヲ設ケ秦白王島トノ間沙原中ニ一直線ノ道路
 ヲ設ケルニ至ラハ稍ヤ交通ノ便ヲ増シ且何物運輸上不凍港ノ價值
 ヲヒク一層大ナラシムルニ至ラシ該地点ト秦白王島間ノ直線道路ハ美
 地點查ヲ試ルノ暇アラザリシトモ亦モ秦白王島高所ヨリ展望セシ
 模様ニ依レハ一帶ノ沙原ニシテ樹木疎生スルニシテ以テ假令多少ノ障
 害物アリトスルモ冬季氷結スルニシテノ河流是ニ過キサルニシテ信ス
 交通ノ概況右ノ如クナルヲ以テ本冬季間全島ヲ經由シ内地ニ入りタリ
 貨物ハ極メテ少量ニシテ旅客ニ附隨スル手廻何物ノシト然ルニ方寧
 口適當ナラシカ錨地ニ鉄道ヲ連絡セシムルハ防波堤築造ニ先テ目
 下ノ最大急務ナラント思ヒ考ヘラレ

九 茅



一節
三卷
六七五頁

三

秦皇島灣内全景

二月二十三日 抹殺(番中B31)

近于鉄道線路、秦皇島南西角より北

方へ向て築造中、土堤ヲ示スルモノシテ其上

ニ是ニ氷塊一由序ニ証着ルモノナリ又

諸方ニ漂着スルモノ、氷塊凝着ス

右方ニ微ク、是ニ氷核、上陸所ニシテ

竹ニ。未妥斗古ス、箱地、其左方

ニナリ

軍務局

1112

Handwritten signature or name

次長



第三局



第一局



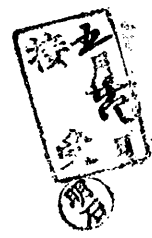
第二課



軍艦島海塘沽越冬記事

演習第八七五

五月三十一日進達



鳥第一三七號

軍艦鳥海塘沽越冬記事
右及報告書也

明治三十三年五月六日

鳥海艦長高橋助一



海軍大臣山本權兵衛殿

海軍

軍艦島海越冬記事

第一項 氣象流氷並に全河氷結後の状態

第二項 繫留準備並に繫留

第三項 繫留後艦体への氷の壓力

第四項 防寒用意

第五項 週課及日課

第一項 氣象流氷並ニ氷結後ノ状態

本年三月一日附鳥第廿八號報告中氣象流氷並ニ全河氷結後ノ状態ノ部、左ノ數項ヲ追加シ第一項トナス

三月初旬ニ於テ天候ハ概シテ平穩ニシテ偏南風多ク次第ニ流氷減少ノ模様アリシト雖モ温度ハ二月下旬比シテ却テ寒冷ナルヲ多キヲ以テ概シキ解氷ヲ見ス本艇ト陸岸ト間ニハ流氷益々積滯シテ高リ支材ニ達スルニ至リ(馬真第一)塘沽上流ニ於テ本艇碇泊場、如キハ猶ホ氷塊ノ充塞スルニ関ラス埠頭ニ長クアラハシ氏ヨリハ數多ノ氣船入河ノ豫報アリタレハトテ本艇ノ繫留解除ヲ促シ來リ本艇ニ於テモ許多ノ氣船埠頭ニ繫留ノ後ハ揚錨等ノ事業ニ困難ナルヲ豫想シ成ル可ク氣船入河ニ先テ上流ノ錨地ニ移ラシムルヲ欲シタルカ故遂ニ三月五日ヲ以テ遼冬驛當地ヲ離シ招商洋局西廠碼頭上流ニ投錨セリ然ルニ今夜高潮

ニ際ニ北西風強吹ノ為メ氷塊ヲ河川岸ニ吹上ケタルヲ以テ殆ニト流水ノ
 半ヲ減シ其後温暖ニ天候續キタルヲ以テ八日ニ至リテ全ク流水ノ
 痕ヲ新ツニ至リタリ

三月十五日最低温度一五度ニ下リ拂曉時ニ於テ新日時ノ間流水
 ヲ泛ハシ外ハ概シテ暖氣日ニ加ハリ三月下旬ニ於テハ最低温度氷
 點下ニ降ルルヲナキニ至リシカ由西風ニ比シテハ偏東風却テ寒冷ナルヲ
 覺ヘタリ四月中旬ヨリハ俄ニ湿度ヲ増シ最高寒暖計七十八度
 ヲ示スニ至リシカ天候ハ概シテ平穩ニシテ時々北西ノ強颯ヲ高リ沙
 塵ヲ吹テ滿天黃褐色ヲ呈スルヲ屢ナリキ

本艦塘沽到着ノ日即チ三十三年十月八日ヨリ三十三年四月廿日ニ至ル百
 六十四日間本艦ニ於テ驗測セシ天候表ハ別表ノ如シ

第二項 繫留準備並に繫留

塘沽鐵路公司様橋下流ノ繫留地ハ明治三十年並に三十年軍艦
 赤城ノ繫留越冬セシ所ニシテ鐵路公司倉庫ノ直前白河ノ左
 岸ニ在リ塘沽河岸ニ於ケル最良ノ繫留地ナルヲ以テ鐵路公司様
 橋ノ汽船ノ輻輳ニテ繫留ノ餘地ナキカ或ハ低舷ニシテ棧橋ヲ繫留
 スルモ荷揚ノ不便ナル小形汽船ノ入河スルニ於テハ今所ニ繫留スルヲ
 常トスルヲ以テ汽船ノ出入頻繫タル際ニテハ河岸ニ於ケル荷物ノ積
 載甚々多ク鐵路公司構内ニ於テハ棧橋ニ次テ最モ重要ナル地矣
 トス

第一項記載、如ク十二月初旬ニ於テ寒威日ニ加テ流氷從テ其量
 増シ來ルヤ全河ノ氷結ハ己ニ目前ニ迫ルカ如キ觀ヲ呈セリト云氏獨

汽船ノ出入全ク絶ハサルカ故該繫留地ノ使用ヲ專ニ能ハス
 天候ヲ顧慮シツ、氣船ノ出港ヲ待ツノ一途アルニ當地方ノ氣象
 並ニ冬季ニ於テハ白河ノ狀態ニ經験ナキモノニ取リテ寧莫ニ至難ノ
 業ト云ハサルヲ得ス

十二月六日埠頭ニ長ワアラオンレ氏ニ就キ繫留ニ要スル木材等ヲ借
 用シ且少繫留地ニ於テ諸準備ヲナスノ認諾ヲ得タルヲ以テ直ニ
 支材運搬等ノ準備事業ニ掛リ繫留地附近略測ノ結果越
 冬準備繫留面ニ示スカ如キ諸地物ノ位置並ニ水深ヲ得タリ
 繫留地附近ハ泥崖ナレバ地質密ニシテ極メテ堅ク支材ノ内端
 ヲ支スルニ足リ且少徒界ニシテ水深急加タルヲ以テ棧橋外縁ノ延
 長線内ニ於テハ距岸三口米突ニ滿タズモ己ニ一五呎ノ水深ア
 リ底質硬泥ニシテ本艦ヲ繫留スルニ最ニ適當ナルヲ認メタリ
 十三日午前十時招商津局西廠碼頭上流ノ錨地ヲ技錨ニ輕微

ノ漲潮流ニ溯ツテ繫留地ニ進ミ越冬準備繫留箇中ニ示ス(A)
 右舷錨ヲ投シ潮流ニ従テ後退シ(B)ニ左舷錨ヲ投シ其錨
 鎖ヲ右舷後部ニ取り鉄線網(C)ヲ取り其後各錨鎖ト共ニ
 互ニ弛張シテ艦ヲ豫定ノ位置ニアラシメ中央及後部ノ支材ヲ取り附
 テ假リニ本艦ヲ固定シ置キ更ニ錨鎖(C)(E)ヲ出シテ繫止杭(C)(F)
 取り附テ前部支材ヲ其位置ニ嵌メ棧橋ヲ架シ此日以得暮ヲ以テ
 繫留事業ノ大半ヲ了セリ

翌十四日更ニ(D)(F)ノ錨鎖ヲ出シ繫止杭(D)(F)ニ取り各錨鎖ニ支柱ヲ
 置キ陸上ニ錨ヲ埋メテ鋼線網(C)ヲ取り端舷ヲ陸上ニ引揚テ棧橋
 欄干ヲ設ケテ等ノ事業ヲナシ更ニ今ヲ繫留事業ヲ完成セリ

前部中部並ニ后部ノ支材ニ用ヒタル三本並ニ棧橋ニ用ヒタル三本ノ木材ハ
 長ク壹九米突口五〇ヨリ壹九米突口九〇ニ至ル三〇〇ノ密乃至四〇〇密角
 ノ亞米利加招ニシテ建築業用トシテ鉄路公司構内ニ收藏シアリ其

他ノ山田材ハ孰レモ鉄道用枕木ニシテ多ク貯藏セラル

本艇ニテ借用シタルモノハ前記亞米利加松角材六本並ニ鉄道用枕

木八十元本ニシテ某用途左ノ如シ(越冬準備繫留圖参照)

亞米利加松角材 三本

孰レモ支材トシテ前部中部並ニ後部ノ三ヶ所ニ使用シ内端ハ泥
崖ニ外端ハ艇側ニ取り付ク

合 三本

棧橋トシテ用ヒ内端ハ河岸ニ据ヘ二本ハ外端ヲ艇内ニ入レ一本ハ

艇側ニ支コ

鉄道用枕木 一三本

各錨鎖ノ支柱トシテ(写真真第ニ)

合 四本

河岸ニ於テ支材ノ内端ヲ支ニル為ニ使用セリ(写真真第ニ)

全 八本

錨鎖鉄索等ノ下ニ置キ泥涯山崩壞ヲ防クニ用ヒタリ

全 一〇本

端艇田材等ノ置場ニ枕木トシテ使用セリ

全 一〇本

艦内ニ於テ便所製作其他ニ使用ス(写真第三)

全 四本

支材及棧橋ノ外端ヲ料約スニ用ヒタリ(写真第四)

繫止杭(ハ)等ハ孰シモ三口ノ際方至四口ノ際角ノ木材ニシテ下部

ヲ又状トシ地下約六米突ニ達セシメ數個ノ横木ヲ當テ埋メ立テタルモノ

ニシテ氣船繫索苗用トシテ約四口米突ヲ距テ、河岸岸ニ建設シアリ

周圍ノ地質極メテ強固ナルモノナルヲ以テ最モ安全ニ繫止杭トス(写真

第五)

支材ノ内端ハ八本乃至十二本ノ鉄道用枕木ヲ以テ之ヲ支ヘ内ニ本
 ヲ泥崖ニ沿テ直立セシメ他ハ之ニ沿テ横卧セシメシモノニシテ緊留中
 毫モ移動埋没等ノ傾キナリ極メテ強固ナリシ(寫真第二)
 支材ノ外端ハ鉄道用枕木ヲ以テ之ヲ釣リ枕木ノ兩端ハ鉄索ヲ以テ
 舷側ニ掛釣セリ(寫真第四)
 陸方ニ道可キタル錨鎖水面ニ接スル所ハ流氷甚ク積滞スルノ恐レアル
 ヲ以テ泥崖ノ少シク外方ニ於テ鉄道用枕木ヲ以テ支柱ヲ造リ稍ヤ
 高ク之ヲ支ヘ置キタリ(寫真第二)

第三項 繫留後艦体ニ及ルル氷ノ壓力

流水ノ艦体ニ及ルル壓力ハ其量ノ多少ト氷塊ノ強堅如何トニ據ルヤ言フ俟タストル。蓋凡水流ノ強弱及ヒ之ニ暴露スル艦体ノ形状モ亦少ナカラズ關係アリ

三十年並ニ三十一年軍艦赤城越冬中ハ常ニ艦首ヲ上流ニ保チタリトモ且該繫留地點河流ノ状況ヲ見ルニ越冬準備繫留圖ニ示スカクテ鐵路公司棧橋ハ繫留地ノ上流ニ於テ距岸約二五米突ニ斗出ニ其上流ニ於テ棧橋ハ高ホ約一口米突斗出スルヲ以テ強猛ニ落潮流ハ終ニト其外縁ニ沿テ流下シ繫留後艦体ニ及ルル強流ハ岸ニ其外方ノ舷倒ニ止リ河岸ニ面スル舷倒ニ於テ其力比較的微弱ナルヲ以テ多少内舷倒ノ推進機ヲ防護シ艦ヲシテ直接氷塊ノ衝突ヲ免カレシムルノ利アリトテ豫想シ艦首ヲ下流ニ向テ繫留セシカ結果殆ント豫想ニ違ハカリシヲ實驗セリ然レモ本年ノ流水期ハ繫留後僅ニ二週

間ヲ出テスレテ全河氷結シタル以テ先カノ實驗ヲスル能ハサリシ又繫
 留中全河氷結ニ至ラレバ間ハ潮流ノ變遷ニリ船体ハ多少潮流ニ
 従テ推移スルカ如ク測及ヒシカ本年越冬中實驗スル所ニ依テ各錨
 鎖ノ緊張宜シキヲ得ハ決シテ斯ル恐レナリ且ツ約六呎ノ干満差アルモ
 錨鎖並ニ支材ニ對シテ毫モ危険ヲ張カラ来スララリシ第一項
 記事ノ如ク十二月十三日越冬地ニ繫留後ハ次第ニ流水ヲ増シ来リ
 十五日ヲ以テ本艦ト陸岸トノ間ハ殆ント凝結セシヲ以テ左舷側ニ於テ
 ハ今ヨ氷塊ノ移動ヤキニ至リ流水ハ之ニ激シテ深ク艦底ニ沈シ又ハ右
 舷側ニ沿フテ流過スルニ至リタリ然ルニ流水益々強固トナリ其大サヲ
 増スヤ右舷後部ニ於テ大ナル氷塊ハ錨鎖ト艦体ノ間ニ挟マリテ
 移動スル他ノ氷塊之ニ衝リテ互ニ相抱合積載シ一大氷塊ヲ形
 成セシヲ以テ其他ノ流水ハ之ニ激シテ外方ニ流過スルモノ多ク直接
 艦体ニ激スル流水ヲ減シタリ

表面是、如キ状態ニ在リトモ、氷塊ハ互ニ相激シテ船底ニ沈ムヲ以テ推進機能等ニ支障セラル、モノ少ナカラス、全河氷結ノ少シク前ニ於テ推進機ノ回轉ニハ稍ヤ困難ヲ感シタリシカ氷結後ニ於テハ船体ノ周圍ヲ碎氷ニ氷塊ヲ引上ラタルカ故、是モ回轉ニ故障ナキに至リタリ

右舷推進機ノ右部ヲ引上ラタル最モ大ニ氷塊ハ寫真第三ニ示スカ如ク長サ約六呎中四呎ミシテ三呎ノ厚サアリ強固ノ度モ亦通常ノモノニ優ル所アルカ如クナリシ

全河氷結後ハ常ニ人夫ニ名ヲ使用モ寫真第六ニ示スカ如キ器具ヲ以テ絶ス、船体ノ周圍ヲ二呎余ノ中ニ碎氷セシメタルヲ以テ氷ノ壓カラシテ直接船体ニ及ハサシムルヲナク、嚴寒ニ際シ水面亀裂ヲ生スル際、錨鎖ニ依リテ其激動ヲ僅カニ船体ニ傳ワルルヲナリシカ寫真第三ニ示スカ如ク、鉄道用枕木ヲ右舷各門ヨリ氷上ニ架シ其非端氷面ニ凝

着て氷面ノ澎漲ニヨリ船体ニ壓力ヲ来スヤ水面電到不ノ激動ハ直
 接本艇ニ傳ハリ激シキ震動ヲ興フルニ至リタリ然レモ再々其
 凝着ヲ去リタル後ハ尙モ震動ヲ興ハサルニ至リ全河氷結中ハ最モ
 安全ニシテ直接船体ニ氷ノ壓力ヲ及ブスリナリ陸方錨鎖ノ緊張ト
 支材ノ耐カトニヨリテ全ク安全ニ整備留セシレ錨鎖(1)(2)ハ稍ヤ弛
 重ノ状態ヲ保テタリ

越又中取モ危険トスル所ハ流氷ノ衝突ニアラス廣大ニ結氷兩岸
 ノ融解ニ達ヒテ遊離シ潮流ニ從テ至大ノ壓力カヲ船体ニ及ブニ在
 リトハ莫ク聞キ及ヒシ処ナカ本年ハ結氷ノ強固ナリシ故カ氷結中
 臺モ斯ル現象ヲ認メス解氷期ニ際シテモ暖氣漸加ノ為メ全河
 氷結ノ儘其厚ヲ減シ来リシノ二月二十六日獨國汽船膠州号ノ溯
 航ノ為メ是々レク氷面ヲ攪乱セシ迄ハ尙モ遊動ノ模様ナリ全船入
 河ノ為メ一條ノ水路ヲ開クヤ數十米突平方ノ氷塊流ニ從ヒテ漂動スルニ

至リタリシカ氷厚僅々二三寸ニ過キス其結晶モ極メテ疎雜トナリ物ニ激
 スルヤ直ニ破碎スルノ性質ヲ備フルニ至リシヲ以テ結果豫想ノ如クナラ
 ス氷片ハ只本艦ト陸岸ト間ニ積載セシニ過サリシト云凡本年ノ如キ
 ハ氣候頃調ニシテ暖氣漸加セシモノナルカ故若シ氣候ノ急變ニ逢
 ヒ大面積ノ堅氷直ニ出岸ヲ离レテ漂動スルニ於テハ或ハ豫想ノ如ク危
 険ヲ醸スニ至リシヤモ未タ知ル可ラス

第四項 防寒準備

十月十四日 最低温度氷点下ニ降り白河支流ニ薄氷ヲ浮ルニ至リ
 シヲ以テ士官室ニ暖爐ヲ用ヒ諸師筒及上甲板ニ取付アル諸ノヤイ

20 等ヲフエアノト系屑帆布等ヲ以テ包被シ十二月四日流氷次第
 ニ増加シ最低温度氷點下ニ降ルリタキニ至リ下士以下一般ニ防寒
 用被服並ニ制規外防寒靴ノ着用ヲ許シ番兵ニ推テ銃番兵外
 套ニ枚並ニ毛織手袋ニ双ヲ裝用セシメタリ(但シ帽ニ至ハ十二月九日
 ニ至リ其使用ヲ許ス)

防寒用被服トシテ下士以下一般ニ貸與セシ物品左ノ如シ

帽ニ至シ 壹個

莫大小襦袢 壹枚

袴下 壹枚

十二月八日前部上甲板ニ二個及左右舷門ニ各一個ノ暖爐ヲ備ヘ
 下士以下一般ニ各一枚宛ノ増毛布ヲ貸與ス

移動御筒ノ常ニ兩舷門ノ附近ニ暖爐ノ傍ニ備ヘ置キタルヲ以テ
 使用ニ支障ナクハシトシ氏御筒モ亦防寒包被ヲ施シタルヲ以テ全

ノ使用ヲ絶ツに至ラリシ

越各地ノ繫留ノ後十二月十七日より二十日までは日間受負人一名支那
 人夫六名ヲ使役シ防寒用蓑子(アヒラ)等身家根造り方ヲ施行
 該家根製作ハ初ノ馬真第四、第七ニ示スカ知リ天幕ノ高サニ
 山材ヲ以テ家根形ヲ造リ蓑子ヲ二重或ハ三重ニ葺キ小綱ヲ以テ
 縫合セムモノニシテ竣成ノ上ハ馬真第六、第九ノ如キ状態ヲナス該
 家根ハ上面ニ天窓一六個舷側ニ舷窓一八個ヲ設テ天窓三個
 舷窓二個ハ硝子窓トシ他ハ蓑子ヲ垂下シテ之ヲ塞クノ装置トシ
 舷橋ニハ辰草ノ為メ六個ノ大ナル舷窓ヲ設テ系基羅鐵箒ハ古布
 及毛布ヲ以テ包被セリ(馬真第十)各桁及クサシギングームハ防寒
 用蓑子家根製作ニ先テ之ヲ卸シテ陸岸ニ運ヒトツアマスト止ラ半下
 之不用ノ索具ヲ抜き取りタル後各橋ハ諸部ノ上ヨリ蓑子ヲ以テ之ヲ
 包被シ(馬真卷照)「ボートズビット」ハ外舷舷ヲ釣リタルモノ外「ボートホル」

ヲ取除キタル後、互ニ向合シテ繫止セリ陸上ニハ又葦子草ノ鍛冶工場
 ヲ設テ外舷艇ノ外ノ諸端舟ハ底部ヲ上方トシ田材ト共ニ葦子ヲ
 以テ包被セシ後粘土ヲ塗リテ寒氣ノ為メ新隙ヲ生スルヲ防キタリ
 (寫真第十一)

便所ハ寫真第三、才十二ニ示スカ如ク鉄道用枕木ヲ用ヒテ舷外ニ
 造リ葦子ヲ以テ包被シ下部ハ一呎角長サ六呎ノ木筒ヲ以テ水面
 上約一呎ニ及ホセリ

第五項 週謀及日謀

越冬中ハ寒威酷烈ナルニテ、第四項ニ記スルカ如ク防寒準備ヲ

原 註

為シタルカ為ノ規定ノ週課ヲ履行スル能ハサリシヲ以テ練習号
 教育ヲ主眼トシテ一週間ニ回宛普通学ヲ教授シ日課ノ如キモ
 寒威ノ強弱ニ依リ種々斟酌シテ変更シ来リタリ

鳥第一三八號

白河現狀並大沽門洲上潮信之測之本艦
航海長海軍大尉飯田久恒海軍中尉白石土部
ヲシテ調査セシメテ結果別紙實驗筆記ヲ
得タルヲ以テ及報告候也

明治三十三年五月六日

鳥海艦長高橋助一郎



海軍大臣山本權兵衛殿

海軍

白河並塘沽附近の現況及大沽問洲上の潮信

白河ハ北京天津ヲ通シテ直隸濱ノニ注リ極メテ樞要ナリ大河
ナルニ關スル身之填塞シテ汽船ノ溯航ヲ困難ナラシメ天津
繁榮ノ一部ハ將ニ塘沽ニ移ラレトスルノ今日白河之身ノ狀態
塘沽附近の現況並ニ大沽問洲上ニ於テハ潮信ノ概略ヲ知
悉シ置クハ隣國海員ニ取リテ取テ無用ノ事ニアラズト信ス

明治三十三年五月六日

鳥海航海長海軍大尉 飯田久恒
鳥海乗組 海軍中尉 白石土郎

塘沽より蘆竹林に至る白河ノ状態ハ別圖ニ示スカ如ク屈曲常ナ
 ク次第ニ河幅及水深ヲ減シ白塘口以上ニ至リテ小艇ノ航行
 ニ適スルニ過キテ諷面ハ昨年十月二十五日大沽曳船會社之氣
 船(喫水七呎五吋)ニ乘テ航下シツ、安莫驗セシモノヲ基本トシ
 本年四月二十三日税関汽艇(喫水五呎五吋)ニ據リテ溯航シツ、
 測定セシ結果ニヨリ修正増補シタルモノニモテ尺度及河身
 屈曲ノ状等ハ海軍海圖第ニ〇二号第ニ〇三号ニ依ルモノトス
 測深ノ結果ニヨリ白塘口ニ至ルノ間ハ葛沽ノ下流
 ニ於テ十一呎並ニ張家嘴附近ニ於テ九呎ノ浅處凡外ハ概シテ
 十二呎以上ノ水深アリ高潮ニ際シテ一二呎以上ニ達スルカ故大沽
 洲上ヲ航過セシ船舶ハ容易ニ白塘口ニ至ルヲ得可ク別圖
 ニ示スカ如ク張家嘴附近ニ於テ九呎ノ水深ヲ得シ片ハ水面拾五

高潮痕下約二呎五吋ニアリルカ故高潮時之際ニテハ噴水一〇
 呎ノ船舶ヲ安全ニ航過セシムルヲ得可ク全地附近ニ於テハ水流ノ
 全部ヲ河ノ左岸ニ導キ水深ヲ増ス目的ヲ以テ別面ニ示スカ如
 ク約五〇米突ノ木柵ヲ右岸ヨリ出シ水流ノ變向ヲ計リツ
 アリ

塘沽ヨリ白塘口直上ノアッパリーナイシフォート迄ハ氣船ノ上航容易
 ナリト吳氏全地ハ往年貨物陸揚地トシテ許可セシメテ割ラス天
 津ト交通不便ナルヲ以テ殆ント之ヲ顧ルモノナク紫竹林白
 塘口間ノ填塞ハ遂ニ塘沽ヲシテ一般氣船ノ發着地タルニ
 至ラシメタリ

紫竹林白塘口間ハ河底ノ填塞ト共ニ大ニ可航水道ノ幅員ヲ
 減シ天津ヨリ下流ノ屈曲部即チ別面ニ山崩崖ト記スル點
 ニ於テハゴライダール一隻ヲ引キタル瀧船ノ航行ヲ危カラシメテゴ
 エバーラス

子ニカケリ下流下河園附近ニ於テモ航路ノ曲折急ニシテ深水ノ
 幅員極メテ狭キ力故漕船ノ航行甚々困難ナルに至リ
 白河ノ状態ニ関シ二十一年間、経験アル水先人「カブリヤ」ガニキヤードト
 ノ言ニ依ルニ白河ハ河底ノ填塞ト共ニ河幅ノ狭窄最モ盛ニシテ河
 幅依然スル所ハ水深ヲ減シ水深依然スル所ハ河幅ヲ減スルカ
 故河水ノ漲溢ヲ計ル外他ニ救済ノ道ナシト云ヒ目下ニ事ナ
 ル三大運河水門ニ事ノ如キハ殆ント効ヲ奏スルノ見込ナシト
 白河ノ状態右ノ如クナラ以テ塘沽ノ景況ハ日ニ隆盛ニ赴キ碼
 頭ノ新設倉庫ノ建築等疑ムトモ進歩ノ状態ニテリ招商洋
 局西廠碼頭ノ竣成新河^{ニシテ}荷揚場ノ新設各碼頭ニ至ル鐵道
 線路ノ布設等ヲ其最モ大ナルトナシ商人人口ノ増加ニ至ラハ一
 ヲ枚舉スルニ遑アラズ郵政廳ハ稅関ノ傍ニ又高サハ二呎ノ稅関
 旗竿ハ其前方ニ新設セラル招商洋局西廠碼頭ハ其上下流ニ

各數十米突ノ擴張ヲナス目的ヲ以テ埋立並ニ建家取拂之事
 中ニ新河ニ於テハ荷揚場ハ高潮面上約六呎ノ埋立地ニシテ長
 ヲ九〇米突中一五米突ノ木造棧橋及長ヲ六三米突中二〇米突
 ノ太倉庫ヲ有シ河岸ハ一五本ノ繫止杭ヲ獨ホ上流ニ向ヒ埋立ニ
 事申スルカ該地点ハ河岸ニ沿ヒ大低潮時ニ於テ一三呎ヨリ以テカラサル
 水深アリ徒岸ニ於テ以テ汽船ノ發着頻繁ナルニ至ラハ獨ホ充不
 擴張ヲナスヲ得可シ

大沽ヨリ大運河ニ通ル水門ニ事ハ終ニト落成ニテ目下河水ヲ通シ
 舊運河ハ土砂ヲ以テ阻塞セシカ尙ホ工事中ニアル單糧城ヨリ蘆
 台ニ通ル運河ノ水門竣テ上ニ非ズハ充不其結果ヲ見ル能ハスト云
 フ寫真第壹四六六大沽ニ於テ水門ニ事ヲ示ス水先人コバシチチド
 言ニ依ルルハ塘沽上流ニ於テハ本艦錫地ノ如キ數年前迄ハ低潮時
 水深一五呎アリニ是ノ船舶相對シテ錫治ニ得ニシトノナルカ目下ノ

状態ニ於テ西岸ニ於テ浅所ノ擴延セシ結果一隻ノ船舶スラ錨船
 ニ狹隘ヲ感スニ至リ低潮時水深十二呎ニシテ本艦ノ如キハ低潮時際
 上艦底ノ僅カニ膠着スヲ驗セシテ屢アリキ
 寫真第十五ハ清國水雷艇逐艇ノ大沽收陽ニ越冬セシ状態ニカ
 艦船越冬法ニ関スルモノナルヲ以テ爰ニ附記ス
 大沽門洲上ニ於テ高潮時水深ノ偏東風ニ大ニシテ偏西風ニ小ニハ
 風ノ入ノ知ル所ニシテ偏西風連吹スルニ於テハ朔望高潮ト多クハ
 洲上ノ水深僅々七八呎ニ過キス低潮時ニ際シテハ僅々一呎余ノ水深
 トナリ端艇モ猶ホ安全ニ航過シ能ハサルニ至ル然ルニ一朔偏東強風
 ヲ来スヤ朔望高潮ニアラスト多ク水深十二三呎ニ及ビ低潮時ニ猶
 ホ三四呎ノ水深アリテ中流艇ノ如キハ自由ニ出入シ得ルヲアリ故ニ該門
 洲上ノ潮信ハ必スシモ月ノ形状ニ據ルモノニアラスシテ該地方ノ風向風
 カハ單ニ密接ノ關係ヲ有スルモノナルカ如シ然レバ該潮信ハ單ニ大沽附

近ノ風向風力ニ関スルモノニアラス直隸遠東西海濱全部ノ風信

モ亦無テ方見モノナカ故沙墨田蘇鷄島等ニ於テハ測候ノ結果ヲ

得大沽風信ト相對照スルニ非スニハ到底精細ナル攻究ヲ為ス能ハスト

白虫氏大沽ニ於テハ風信ハ最モ關係ノ大ナルモノナルカ故暫ク之ニ據リ昨

年十月七日ヨリ本年四月二十五日迄百七十日間ニ於テハ實驗ニ得タル結果

ヲ以テ大沽潮信表ヲ編成セハ別表ノ如シ

別表第一欄ハ日附ヲ示スモノニシテ二符見ハ満月ヲ示ス

午前五午後ノ第一欄ハ大沽測候所ニ於テ測定セル高潮時ヲ示ス

全 第二欄ハ潮候時ヲ用ヒテ算出セル高潮時ナリ

全 第三欄ハ第一欄第二欄ノ差ニシテ某日ニ於テハ潮候時ヲ示ス

全 第四欄ハ高潮時前六時間内ニ於テハ最モ長時間カ又ハ

全 第五欄ハ全風力ヲ示ス

原 圖

午前及午後第六欄ハ大沽河洲上ニ於ケル高潮時水深ヲ示ス

表中第三欄以下ノ墨書ナルハ北東ヨリ東及南ヲ經テ南西ニ至ル風位

ニ據テ起ルモノヲ示シ朱書ナルハ南西ヨリ西及北ヲ經テ北東ヨリ北ニ

至ル風位ニ據テ起ル高潮ヲ示ス

(註) 白河附近ハ海岸ノ形狀南西ヨリ北東ニ走リ實驗上北東ヨリ

東及南ヲ經テ南西ニ至ル十七點間ノ風位ニ對スル高潮ハ自

餘十五點間ノ風位ニ據テ起ル高潮ヨリ稍ヤ大ナルカ如クテ

ルヲ以テ別表ノ如ク其風位ヲ分テリ

別表中毎月ノ平均高潮及六月月間平均高潮ヲ取リテ風位ト對照セ

ハ大高潮ハ必スシモ朔望後ノミニ起ルモノニアラスシテ東半圓ノ強

風ニ據ルモノ最モ多キヲ見ル可シ

潮高ハ右ノ如ク東半圓ノ風ニ高ク西半圓ノ風ニ低キヲ明瞭ニシテ疑

ヲ容ルノ点ナシトシ且凡潮候時變化ノ理由ニ至リテハ大ニ原因探究ニ

若しム所アリ至細ノ探究ニ至リテハ潮候測定ニ經驗ナキモノ到底
 企テ及フ能ハサル所ナリ以テ冬季六月間ノ現況ヲ見ハシテ爰ニ先進者
 ノ判断ヲ乞フ事トナセリ

別表十月ヨリ四月ニ至ル六月間ノ潮信表ニ據ルニ潮候時ハ毎月満月後
 ニ最モ大ニシテ新月後之ニ次キ上弦及下弦後ニ於テ最モ小ナルカ
 如ク最大四時三十一分ヨリ最小零時三十六分ノ間ニ於テ時々變動
 アリ風向風力及潮高等ニハ毫モ關係ナキモノ如ク問洲上ニ於
 ケル水深ノ年々進テ減少スルハ前項述ハタルカ如クナルカ左表
 ニ據ルハ猶一層其結果明瞭ニシテ本年ニ於テ其現象最
 モ顯著ナルヲ見ルヘシ

毎斗雨期ニ於テハ稍ヤ増水ノ傾キアルモノナルカ是レ全ク一時
 ノ現象ニシテ該期ヲ過シハ舊ニ復スルモノナルカ故ニ毎年三四月
 即チ解氷期ノ水深ハ殆トト該一年間ノ水深ヲ判スルニ足ラン

大正開港上・松ケル毎月平均高潮比較表

年別	一月	二月	三月	四月	備考
明治廿年	10'56	10'26	12'17	11'30	○ 即、九年全河氷結中ノモノ
廿一年	11'20	11'26	11'38	11'50	× 七日ヨリ廿一日迄、平均ヲ示ス
廿二年	9'66	10'35	10'44 [×]	10'41	△ 一日ヨリ廿五日迄、平均ヲ示ス
廿三年	9'27°	9'59°	9'47 [△]	9'9'1 [△]	

又別表ニ示ス潮高信ヲハハリスヤイサタイケルマニニアルレニ記
 載ノモノニシテ目下警備隊中ノモノナルカ水誌ノ記載ノモノト稍
 中異ナル所アリカテナラシラ以テ爰ニ添付ス

海軍海越冬記軍附前年別表

海

軍

茅 壳



解氷期に際し流氷本船に陸
岸より積載せし実景
三月三日 妹 景

1153

二 茅



〔繫留用支材不具片端〕
 支材ノ片端ヲ垂ルル材ニハ
 鉄道用枕木ヲ用ユ
 錠鎖ヲ支ヘルニ三脚ノ支柱ニ鉄道
 用枕木ヲ用ユ

三 芽

0511

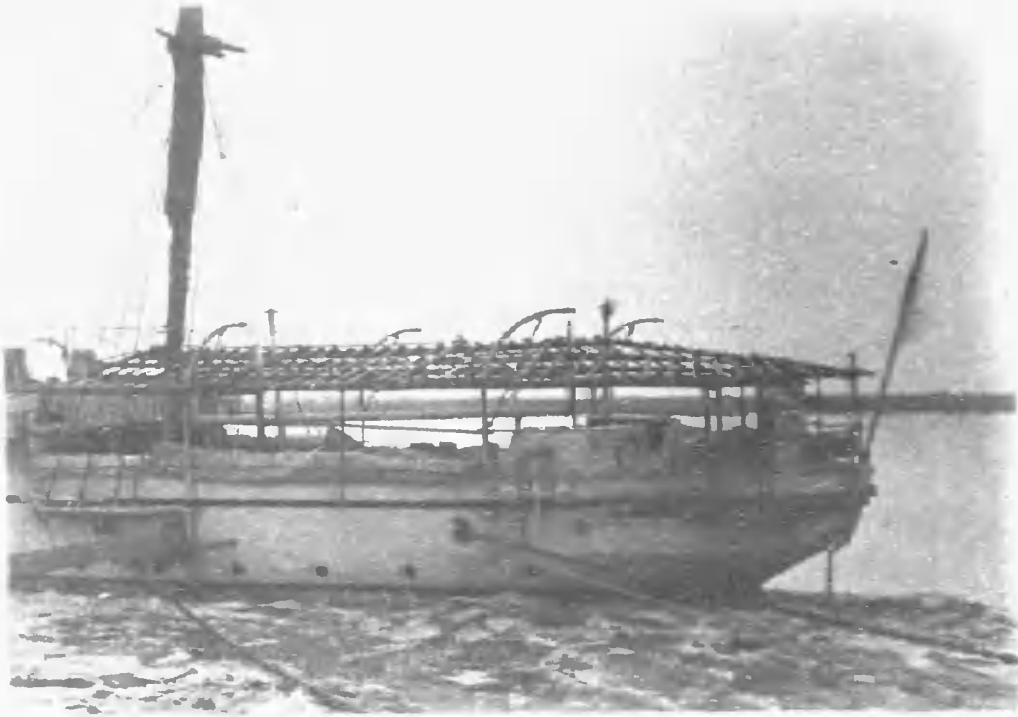


船に推進機、向に凝着し
 大なる氷塊
 船尾左右舷に取付たる木製ノ筒
 冬季に使用之に便計ナリ

1175

18

芽



防真渡羊製

3577

五 茅



越冬繋留地、繋止杭

六 芽



氷碎ム夫
碎氷ニ要スル器具ヲ
換フ

8511

七

茶



防真渡半製
 左飛側ハ已ニ著子ヲ以テ故
 上部中ニ右飛側ハ骨子ノ
 一 坡成



算子ヲ以テ積ルニ後甲板
 中央碇子迄一夫并ニ設ケル
 モノニシテ其大寸ノモノニ毎側
 設ケラルモノナリ

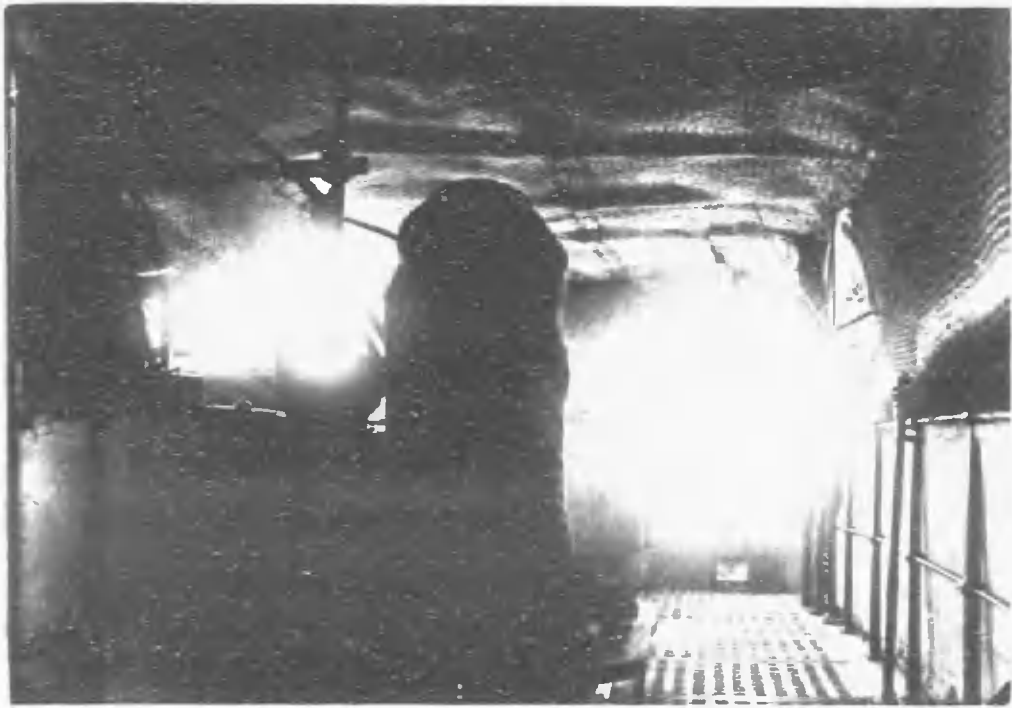
1250 菜 丸



前甲板
の
様子

1151

十 茅



所莫復ヲ施シテ船橋
 羅鐵儀ニ至布ヲ以テ包被ス

1152

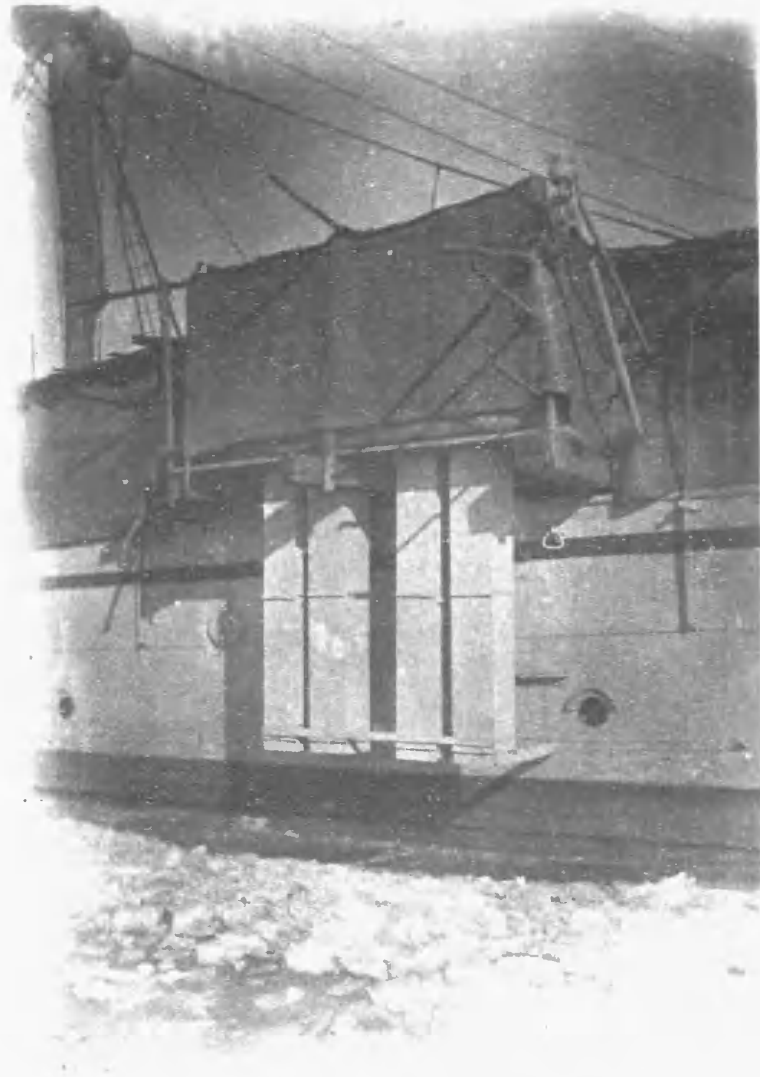
茅 十 一



越冬中、
 新土ア
 以テ包被セ
 端并、
 鉦石工場

8577

二十第



嚴寒に際し使用
せし前舟便所

1154

茅 十 三



新運河口の筏こし水門

1155

茅十田



新運河の建設と水門

1158

五 十 号



清
 七
 水
 官
 記
 運
 船
 越
 各
 為
 一
 收
 臨
 二
 収
 藏
 セ
 ラ
 レ
 シ
 モ
 ノ

軍艦島海墾活硯田中氣象一覽表

月別	氣象 測候時		天候	風候								晴雨計	附屬 寒暖計	球寒 暖計	球寒 暖計	一月平均 最低 外氣溫度	備考
				N-E-N		E-S-E		S-W-S		W-N-W							
				吹面 起數	風極 力度	吹面 起數	風極 力度	吹面 起數	風極 力度	吹面 起數	風極 力度						
十一月 自廿八日 至廿日	午前	四時	Bc	9	1-2	1	1-2	4	1-2	9	1-4	30.328	39.52	37.30	32.78	24.08	針之液り等皆占し 極端、偏、急寒、暖 最低外氣溫度 数字 他、何れも一月平均 ヲ合ハス 凡候欄内ニ至極凡 最多数、モ、一掃 天候欄内ニテ中
		八時	Bc	9	1-2	1	1-2	2	1-2	7	1-2	30.347	38.52	35.69	32.78		
		十二時	Bc	5	1-2	3	1-2	3	1-2	11	1-2	30.345	46.73	45.73	40.21		
	午後	四時	Bc	2	1-2	4	1-2	6	1-2	10	1-3	30.327	50.91	48.65	41.95		
		八時	Bc	2	1-2	3	1-2	7	1-2	9	1-3	30.328	46.21	44.08	39.17		
		十二時	Bc	4	1-2	2	1-2	7	1-2	8	1-4	30.347	43.04	40.43	35.13		
十二月 自廿一日 至廿日	午前	四時	Bc	2	1-2	5	1-2	5	1-2	11	2-5	30.285	29.54	30.00	27.93	20.41	
		八時	Bc	10	1-4	3	1-2	7	1-2	9	1-4	30.259	28.13	28.64	26.64		
		十二時	Bc	6	1-4	4	1-2	7	1-2	12	2-5	30.295	34.09	35.00	31.70		
	午後	四時	Bc	6	1-2	13	1-2	3	1-2	9	1-3	30.284	35.93	37.22	33.64		
		八時	Bc	4	1-3	7	1-2	3	1-2	9	2-6	30.290	33.64	34.54	30.35		
		十二時	Bc	5	1-2	6	1-2	4	1-2	10	2-5	30.251	30.80	31.16	29.35		
一月 自廿一日 至廿日	午前	四時	Bc	1	1-2	4	1-3	4	1-2	8	1-2	30.466	21.19	20.83		10.38	二、三、記入セズ 凡、為、有、動、事、中 還、球、寒、暖、計、寒
		八時	Bc	8	1-2	1	0-1	5	1-2	10	1-5	30.470	20.45	20.06			
		十二時	Bc	9	1-2	7	1-2	2	1-2	9	1-2	30.464	23.54	25.51			
	午後	四時	Bc	6	1-3	11	1-2	3	1-2	8	1-2	30.467	27.29	30.00			
		八時	Bc	5	1-2	6	1-2	4	1-2	10	1-2	30.455	27.32	28.80			
		十二時	Bc	3	1-3	4	1-2	3	1-2	6	1-2	30.480	24.16	24.67			
二月 自廿一日 至廿日	午前	四時	Bc	2	1-2	5	1-4	7	1-4	4	1-4	30.317	30.17	30.28	28.63	18.00	
		八時	Bc	4	1-2	6	1-3	10	1-2	5	1-2	30.317	28.85	29.46	28.04		
		十二時	Bc	5	1-2	7	1-4	5	1-3	9	2-6	30.310	34.25	36.89	34.40		
	午後	四時	Bc	0		10	1-4	6	1-2	10	2-5	30.304	36.82	38.89	37.28		
		八時	Bc	2	1-2	8	1-2	10	1-2	4	1-3	30.320	35.32	38.10	36.80		
		十二時	Bc	3	1-3	6	1-3	5	1-2	8	1-4	30.326	32.92	34.25	33.40		
三月 自廿一日 至廿日	午前	四時	Bc	7	1-4	5	1-2	8	1-2	8	1-4	30.130	36.48	37.74	34.16	28.09	
		八時	Bc	4	1-2	10	1-5	6	1-2	11	1-3	30.144	36.35	37.16	34.45		
		十二時	Bc	3	1-5	8	1-6	7	1-4	12	2-5	30.165	42.16	44.74	39.19		
	午後	四時	Bc	2	1-2	11	1-5	9	1-4	9	2-4	30.120	46.77	48.00	41.58		
		八時	Bc	4	1-5	9	1-6	8	1-2	10	2-5	30.132	42.87	44.09	39.06		
		十二時	Bc	8	1-5	5	1-3	9	1-2	6	2-5	30.147	39.13	40.32	36.12		
四月 自廿一日 至廿日	午前	四時	Bc	5	1-3	7	1-4	5	1-2	2	1-2	30.032	48.20	49.70	44.75		
		八時	Bc	8	1-3	4	1-4	4	1-2	4	2-5	30.024	48.60	49.10	45.50		
		十二時	Bc	4	1-4	8	1-4	4	1-2	4	1-4	30.058	52.70	53.75	49.20		
	午後	四時	Bc	0		15	1-4	0		5	1-3	30.016	55.80	56.30	49.95		
		八時	Bc	3	1-3	9	1-4	6	1-2	1	1-2	29.959	53.10	53.25	48.30		
		十二時	Bc	2	1-3	13	1-2	4	1-2	1	1-2	30.032	50.65	54.95	46.85		

1157

三十二年十一月潮信表

日	午 前						午 後					
	測定高潮時	算定高潮時	潮時差	風向	風力	大正内測上元	測定高潮時	算定高潮時	潮時差	風向	風力	大正内測上元
7	5-15	2-5	3-10	SE	2	10-6	5-45	2-24	3-21	S	1	10-6
8	6-15	2-29	3-46	SE	1	10-6	6-30	2-53	3-37	SE	1	10-0
9	7-0	3-21	3-39	S	1	10-0	7-30	3-34	3-56	SE	1	10-6
10	7-55	4-14	3-31	SW	1	10-0	8-15	4-45	3-30	SW	1	10-6
11	8-45	5-19	3-26	SW	1	10-0	9-15	6-7	3-8	NW	3	7-6
12	10-0	7-1	2-59	NW	2	8-6	10-30	7-41	2-49	NW	2	8-6
13	11-0	8-5	2-55	NW	1	9-0	11-30	8-47	2-43	NE	2	9-6
14							0-30	9-15	3-15	NW	5	8-6
15	1-0	9-45	3-15	NW	1	7-6	1-30	10-8	3-22	NW	2	8-0
16	2-0	10-31	3-29	NE	2	10-0	2-15	10-58	3-17	NE	2	9-0
17	2-30	11-18	3-12	SW	2	10-0	3-0	11-35	3-25	S	2	10-0
18	3-15	0-1	2-44	NE	1	10-0	3-30	0-19	3-11	NE	2	10-6
19	3-45	0-37	3-8	NW	1	10-0	4-0	0-54	3-6	SSW	3	10-6
20	4-15	1-14	3-1	SW	2	10-0	4-30	1-37	2-53	NW	4	9-0
21	5-0	1-53	3-7	NW	2	8-6	5-15	2-46	2-29	NW	4	9-0
22	5-30	2-34	2-56	NW	3	7-6	6-0	2-53	3-7	SSW	1	9-0
23	6-15	3-14	3-1	SSW	1	9-0	6-30	3-34	2-56	SSW	1	9-6
24	7-0	3-56	3-4	SW	1	9-0	7-30	4-18	3-12	NW	1	10-0
25	8-0	4-44	3-16	NE	2	10-6	8-15	5-7	3-8	NW	3	8-6
26	9-0	5-32	3-28	NW	2	8-0	9-30	5-58	3-32	NW	3	7-6
27	10-0	6-38	3-22	NW	2	7-6	10-30	7-8	3-22	NW	3	7-6
28	11-0	7-45	3-15	N	1	10-0	11-30	8-13	3-17	E	1	10-0
29							0-15	8-44	3-31	NE	3	10-0
30	0-45	9-0	3-45	NW	2	8-6	1-30	9-39	3-51	N	2	8-0

北東~~東~~及~~南~~經~~南~~西 = 至~~北~~十七度, 風位 = 對~~北~~平均潮候時 $3^h - 17^m$
 全上 大正内測上元平均高潮時水深 $9^h - 9^m 60$
 南西~~西~~及~~北~~經~~北~~東~~北~~ = 至~~北~~十五度, 風位 = 對~~北~~平均潮候時 $3^h - 12^m$
 全上 大正内測上元平均高潮時水深 $8^h - 57^m 1$

三十二年十一月潮信表

日 別	前						後					
	測定高潮時	算定高潮時	測定高潮時 高潮時差	風 向	風 力	大沽河州上 採高潮時深	測定高潮時	算定高潮時	測定高潮時 高潮時差	風 向	風 力	大沽河州上 採高潮時深
1	1-15	10-5	3-42	SW	2	8-0	2-30	10-30	4-0	SW	2	7-6
2	2-15	10-51	3-54	SW	1	10-0	3-10	11-16	3-44	SW	1	9-0
3	3-15	11-26	3-37	SW	1	10-0	3-30	11-57	3-33	SW	1	9-0
4	3-15	0-22	3-23	NE	1	10-6	4-0	0-42	3-18	NE	1	10-0
5	4-15	1-3	3-12	NE	1	11-0	4-20	1-21	3-59	SE	1	10-0
6	4-30	1-38	2-52	SE	1	11-0	4-45	1-57	2-68	NW	6	9-0
7	5-15	2-21	2-54	NW	5	9-6	5-45	2-37	3-8	NW	4	7-6
8	6-0	2-34	3-26	NW	2	8-6	6-45	3-4	3-41	SW	2	8-6
9	7-15	3-50	3-55	S	2	8-6	8-0	4-16	3-44	ESE	2	10-0
10	8-15	4-48	3-27	S	2	10-6	8-45	5-25	3-20	SW	2	9-6
11	9-15	6-56	2-19	NE	2	11-0	9-30	7-40	1-50	E	1	8-6
12	10-0	7-24	2-36	NE	1	9-0	10-30	8-5	2-25	ESE	1	8-6
13	11-15	8-38	2-37	NE	2	10-6	11-30	9-16	2-14	SE	1	9-6
14	12-0	9-44	2-16	NW	2	7-6						
15	0-30	10-11	2-19	E	1	9-6	1-30	10-35	2-55	S	2	8-6
16	2-0	10-58	3-2	NE	2	11-0	2-30	11-18	3-12	NE	2	10-6
17	2-45	11-37	3-8	NE	2	12-0	3-0	12-0	3-0	NE	2	11-0
18	3-15	0-10	3-5	NE	4	11-0	3-45	0-38	3-7	NE	1	9-6
19	4-0	0-57	3-3	SSW	1	9-6	4-15	1-16	2-59	SW	1	10-0
20	4-30	1-34	2-56	NE	2	11-0	4-45	1-51	2-54	NE	1	10-6
21	5-0	1-57	3-3	SW	1	10-6	5-30	2-27	3-3	SW	1	11-6
22	6-0	2-44	3-16	NE	7	14-0	6-30	3-0	3-0	NE	8	11-6
23	6-45	3-19	3-26	NE	2	10-6	7-0	3-37	3-23	NW	1	8-0
24	7-45	3-56	3-39	NW	1	8-0	8-0	4-16	3-44	SW	1	10-6
25	8-0	4-38	3-22	NE	4	12-0	8-45	5-2	3-43	NE	4	10-6
26	9-0	5-31	3-27	NW	1	9-6	9-15	6-0	2-45	NW	1	8-6
27	10-0	6-36	3-24	SE	2	9-0	10-15	7-15	3-0	SW	1	8-6
28	10-30	7-54	2-36	SE	2	9-6	10-45	8-29	2-16	NW	1	10-0
29	11-0	9-5	1-55	ENE	3	12-0	11-45	9-37	2-8	ENE	4	8-0
30	11-45	10-8	1-37	ENE	1	8-0						
31	0-45	10-36	2-9	ENE	1	9-0	1-45	11-2	2-43	NW	4	8-6

北東²東²南²經²南西²至²北²風位²對²平均潮候時

3^h-4^m

全上

大沽河州上²採²平均高潮時水深

9^l.990

南西²西²北²經²北²至²北²風位²對²平均潮候時

2^h-5^m

全上

大沽河州上²採²平均高潮時水深

8^l.772

三十三年二月潮信表

日 別	午 前						午 後					
	測定高潮時	算定高潮時	測定高潮時 測定算定時 差	風 向	風 力	大正河川上・花 元高潮時水深	測定高潮時	算定高潮時	測定高潮時 測定算定時 差	風 向	風 力	大正河川上・花 元高潮時水深
1	3-30	0-29	3-1	SE	1	10-6	3-30	0-56	2-34	SE	3	10-6
2	3-45	1-9	2-36	SE	2	11-0	4-0	1-32	2-28	NW	7	8-9
3	4-30	1-49	2-41	NW	1	9-0	4-45	2-8	2-37	NW	5	8-0
4	5-0	2-30	2-30	NW	2	7-0	5-15	2-51	3-24	NW	7	7-0
5	5-45	3-10	2-35	N	2	9-0	6-15	3-34	2-41	N	2	9-6
6	6-45	4-6	2-39	N	1	9-0	7-0	4-35	2-25	SE	2	8-6
7	7-30	5-1	2-27	SE	1	8-6	8-0	5-36	2-24	SE	3	9-6
8	8-15	6-25	2-50	NW	1	9-6	8-45	6-59	1-46	NW	4	8-0
9	9-15	7-48	1-27	NW	1	8-6	9-30	8-21	1-9	SW	2	8-6
10	9-45	8-51	0-54	SW	1	8-0	10-15	9-19	0-56	N	2	8-6
11	10-30	9-54	0-36	SW	1	9-0	11-0	10-17	0-43	SE	2	9-0
12							0-30	10-46	1-44	NE	3	10-6
13	1-30	10-43	2-47	NE	1	10-0	2-30	11-14	2-16	NE	2	10-0
14	2-45	11-33	3-12	NE	4	11-0	3-15	11-36	3-39	NE	3	10-0
15	3-30	0-6	3-24	NW	1	4-6	3-45	0-24	3-21	SE	2	9-6
16	4-0	0-38	3-22	S	1	8-6	4-15	0-56	3-19	SE	3	10-6
17	4-45	1-9	3-36	NE	2	10-6	5-0	1-28	3-32	NNE	2	11-0
18	5-30	1-40	3-50	SW	2	10-0	6-0	1-59	4-1	SE	2	11-0
19	6-15	2-11	4-4	SW	2	10-0	6-30	2-29	4-1	SW	2	10-0
20	7-0	2-48	4-12	SE	2	10-6	7-15	3-9	4-6	SE	2	8-6
21	7-30	3-26	4-4	SW	2	9-0	8-0	3-49	4-11	NW	2	9-6
22	8-45	4-18	4-27	NE	1	10-0	9-0	4-48	4-12	SE	3	10-6
23	9-30	5-10	4-20	NE	2	10-6	9-45	5-47	3-58	NE	1	10-0
24	10-0	6-35	3-25	S	1	10-6	10-15	7-15	3-0	SE	2	11-6
25	10-30	8-0	1-30	SE	4	11-6	10-45	8-43	2-2	ESE	5	11-6
26	11-0	9-16	1-44	ESE	2	10-6	11-30	9-51	1-39	NW	1	9-6
27	12-0	10-32	1-28	NW	1	8-6						
28	0-15	10-58	1-17	SE	1	10-0	1-0	11-21	1-39	SE	1	9-6

北東の東及南の経の南西 = 至ル十七度、風位 = 對ル平均潮位時 2^h - 5^m

全上 大正河川上・花元平均高潮時水深 9' 987

南西の西及北の経の北東 = 至ル十五度、風位 = 對ル平均高潮時時 2^h 19^m

全上 大正河川上・花元平均高潮時水深 8' 625

三十三年三月潮信表

日 別	午 前						午 後					
	測定高潮時	算定高潮時	測定高潮時 算定高潮時 差	風 向	風 力	大沽河洲上 水深	測定高潮時	算定高潮時	測定高潮時 算定高潮時 差	風 向	風 力	大沽河洲上 水深
1	2-30	11-31	2-59	SW	6	12-2	3-0	0-3	2-57	SW	5	9-6
2	3-15	0-12	3-3	SW	5	10-8	3-15	0-36	2-39	SW	3	9-6
3	3-30	1-51	2-39	SW	2	11-0	4-0	1-8	2-52	SE	2	10-6
4	4-15	1-29	2-46	S	3	10-6	4-50	1-48	3-2	SW	4	10-6
5	5-0	2-7	2-53	SW	2	10-0	5-45	2-28	3-17	SE	1	10-0
6	6-15	2-54	3-31		4	10-3	6-30	3-19	3-11	SE	3	9-0
7	7-0	3-43	3-27	SW	5	8-6	7-15	4-9	3-6	NW	6	8-0
8	7-45	4-49	2-56	SW	2	10-0	8-0	5-18	3-40	N	1	8-0
9	8-30	5-55	2-35	SSW	2	9-0	8-45	6-27	2-18	ESE	8	11-0
10	9-15	7-10	2-5	E	3	9-6	9-30	7-42	1-48	SE	2	7-6
11	10-15	8-26	1-49	NE	3	7-6	10-30	8-56	1-34	SE	3	7-0
12	11-30	9-16	2-14	SW	4	7-0	12-1	9-41	2-19	NE	4	9-0
13							1-0	10-7	2-53	ESE	9	14-0
14	1-45	10-27	3-18	NNE	7	14-0	2-40	10-39	4-1	NW	5	8-0
15	3-0	10-58	4-2	NW	3	8-0	3-30	11-12	4-18	S	2	8-0
16	3-45	11-29	4-16	SE	2	11-0	4-0	11-48	4-12	SSW	2	11-0
17	4-15	0-10	4-5	NW	3	11	4-15	0-24	3-51	NW	4	11-0
18	4-45	0-42	4-3	NW	6	10-0	5-0	0-58	4-2	NW	6	9-0
19	5-15	1-14	2-1	NW	7	7-0	5-30	1-31	3-59	NW	7	8-6
20	5-30	1-48	3-42	SSW	4	10-0	6-15	2-7	4-8	SE	3	11-0
21	6-15	2-23	3-52	SSW	4	11-0						
22	7-0	3-7	3-53	NE	4	11-0	7-15	3-31	3-44	SE	1	10-0
23	7-45	3-51	3-49	S	4	10-0	8-0	4-19	3-41	SW	4	10-0
24	8-15	4-57	3-17	NNE	4	11-0	8-30	5-35	2-55	SE	3	9-6
25	8-45	6-4	2-41	SW	3	8-6	9-0	6-50	2-10	SE	3	9-0
26	10-15	7-34	2-41	NW	6	7-0	10-30	8-13	2-17	NW	10	8-6
27	11-30	9-45	1-30	N	3	8-6	11-30	9-37	1-53	N	4	8-6
28							1-0	10-8	2-52	SE	3	9-0
29	1-30	10-33	2-57	SE	3	10-0	2-0	10-52	3-8	E	2	10-6
30	2-15	11-13	3-2	NE	3	11-0	2-30	11-39	2-51	E	3	11-0
31	2-45	12-0	2-45	S	2	10-6	3-15	0-14	3-1	S	2	11-0

北東の東正南の經の南西。至二十七度、風位。對平均潮候時 3^h-1^m
 全上
 大沽河洲上。平均高潮時水深 10^l.030
 南西の西の西正北の經の北東正北。至二十五度、風位。對平均潮候時 3^h-10^m
 全上
 大沽河洲上。平均高潮時水深 9^l.017

三十三年四月潮信表

日 別	午 前						午 後					
	測 定 高 潮 時	算 定 高 潮 時	測 定 算 定 高 潮 時 差	風 向	風 力	大 站 向 上 の 測 定 高 潮 時 水 深	測 定 高 潮 時	算 定 高 潮 時	測 定 算 定 高 潮 時 差	風 向	風 力	大 站 向 上 の 測 定 高 潮 時 水 深
1	5-30	4-35	2-54	NW	6	10-6	4-0	1-53	3-7	NW	4	11-0
2	6-0	1-12	2-68	SE	6	11-0	4-30	1-34	2-56	NW	3	12-6
3	5-0	1-52	3-8	NE	3	11-6	5-18	2-16	3-1	E	3	11-6
4	5-30	2-38	2-52	NE	2	11-6	6-0	2-58	3-2	NW	3	11-6
5	6-15	3-26	2-49	E	6	12-6	6-45	3-50	2-55	E	6	11-0
6	7-0	4-18	3-42	NE	4	13-0	7-15	4-47	2-28	NE	2	12-0
7	7-45	5-20	2-24	NW	2	8-6						
8	8-30	6-30	2-0	ESE	2	11-0	9-15	7-3	2-12	E	4	11-4
9	9-30	7-40	1-50	ESE	5	10-0	10-0	8-10	2-0	-	0	9-5
10	10-30	8-39	1-51	ESE	1	9-6	11-15	9-4	2-11	E	3	10-0
11							0-30	7-28	3-2	E	5	12-0
12	1-0	9-50	3-10	E	1	10-6	7-45	10-10	3-35	NW	1	8-6
13	2-0	10-30	3-30	N		9	2-30	10-48	3-42	SE	2	10-0
14	2-45	11-8	3-37	SE	2	10-5	3-0	11-31	3-29	WSW	2	11-0
15	3-30	11-40	3-50	SW	2	11-0	3-50	11-58	3-52	E	2	10-6
16	4-0	0-1	3-59	SE	2	10-6	4-30	0-30	4-0	SE	2	11-6
17	4-45	0-53	3-52	E	1	10-0	5-0	1-9	3-51	SE	2	11-0
18	5-30	1-29	4-1	S	1	11-0	5-40	1-47	3-53	SE	2	11-6
19	6-0	2-10	3-50	E	1	10-6	6-15	2-28	3-47	SSE	1	10-6
20	6-30	2-27	4-3	E	2	10-0	7-0	3-11	3-49	SE	4	13-0
21	7-15	3-51	3-24	NE	2	11-0	7-30	3-57	3-33	SE	3	10-6
22	8-0	4-25	3-35	SSW	2	9-0	8-30	5-3	3-27	SE	2	9-0
23	8-30	5-37	2-53	SSW	3	9-0	9-0	6-21	2-39	SE	3	9-8
24	9-30	7-1	2-29	SW	4	9-0	10-0	7-48	2-12	NW	7	9-0
25	10-0	8-31	1-29	NW	7	8-6	11-0	9-7	1-53	NW	2	10-0

北東の東及南の南西。至ル十七度、風位。對ル平均潮候時 3^h - 11^m

全上 大站向例上。於ル平均高潮時水深 10^l 7.12

南西の西の西及北の北東。至ル十五度、風位。對ル平均潮候時 2^h - 47^m

全上 大站向例上。於ル平均高潮時水深 9^l 7.27

又四月十一日即三月廿五日。至ル百七十日尙三石二十七回、高潮時。狀々

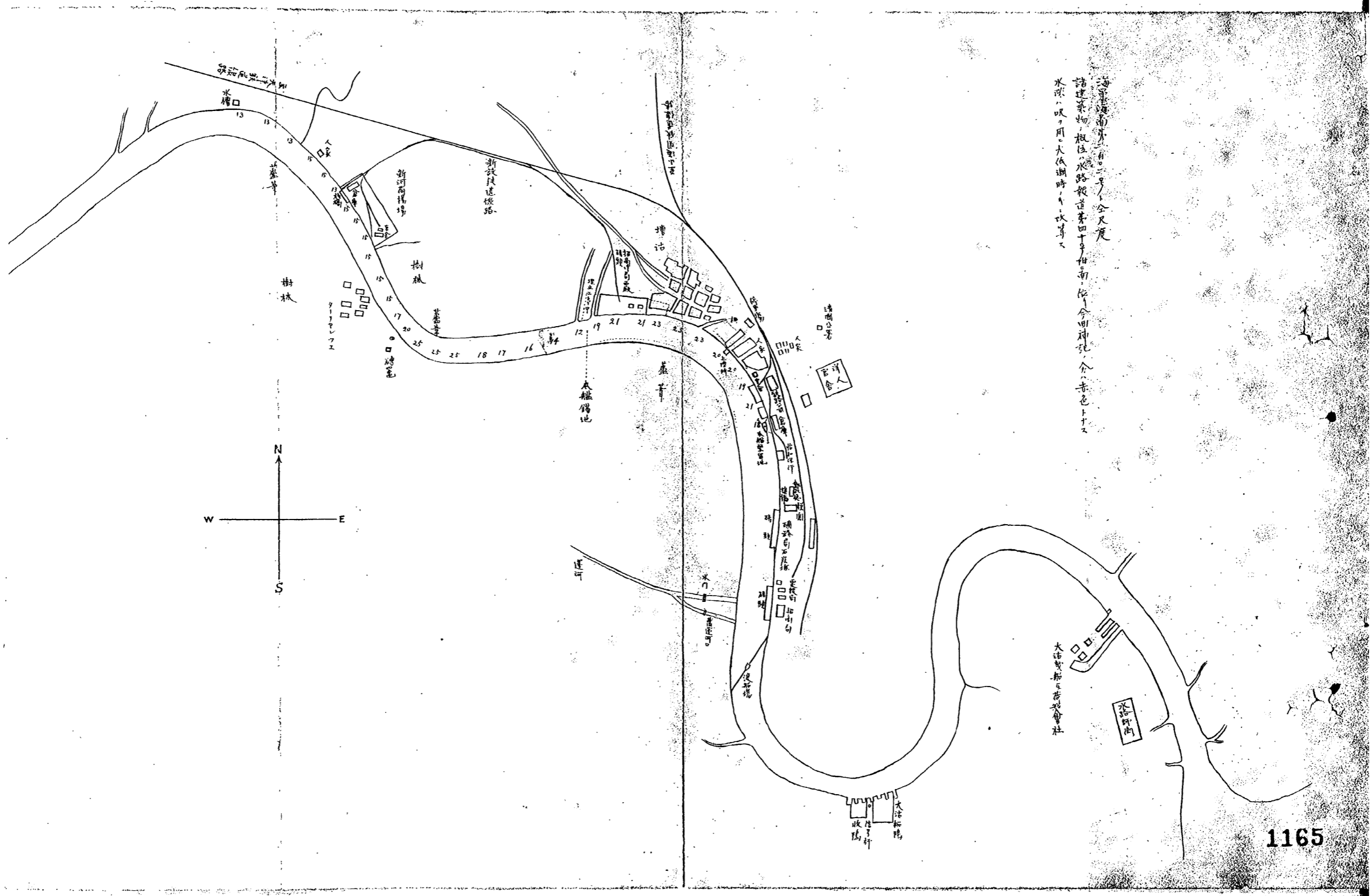
通算七次、如左、

北東の東及南の南西。至ル十七度、風位。對ル平均潮候時 3^h - 2^m 5

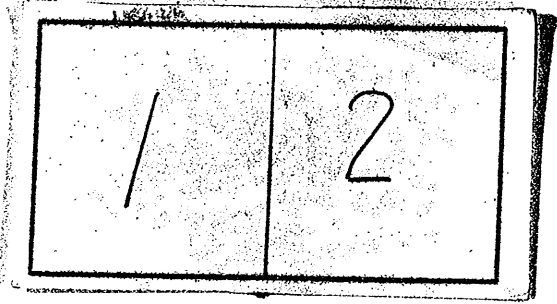
全上 大站向例上。於ル平均高潮時水深 10^l 0.29

南西の西の西及北の北東。至ル十五度、風位。對ル平均潮候時 2^h - 56^m

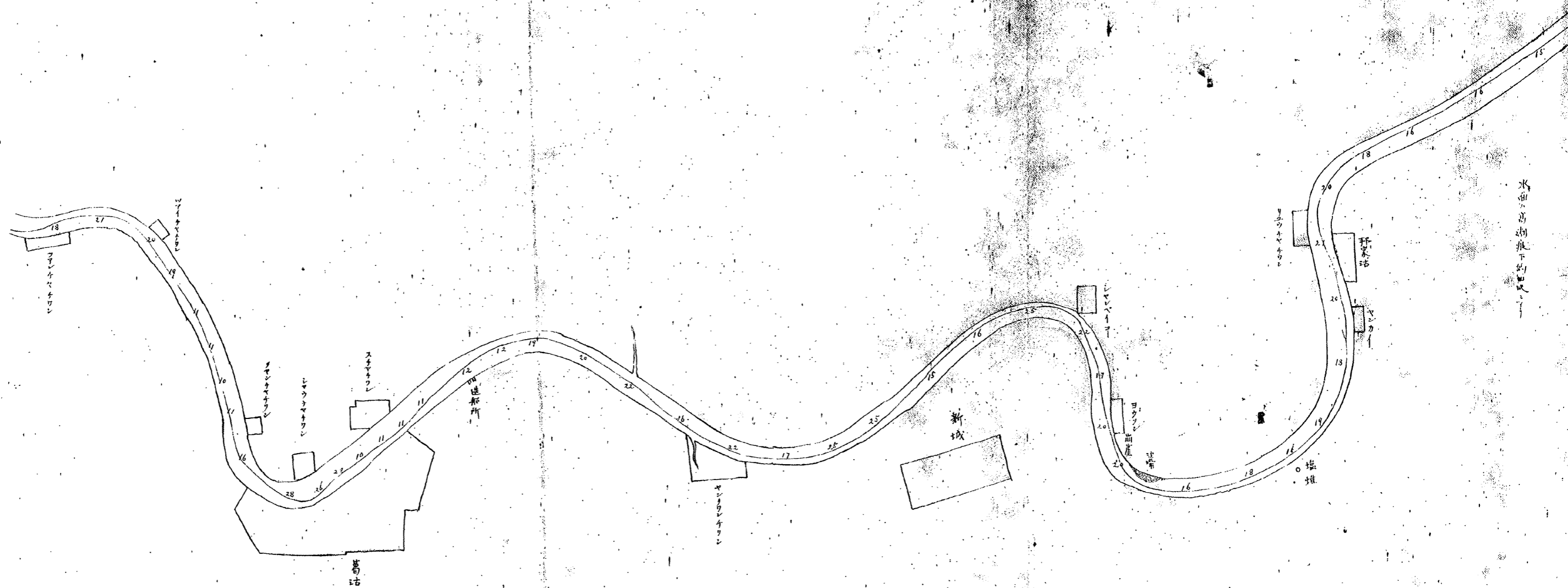
全上 大站向例上。於ル平均高潮時水深 8^l 8.59



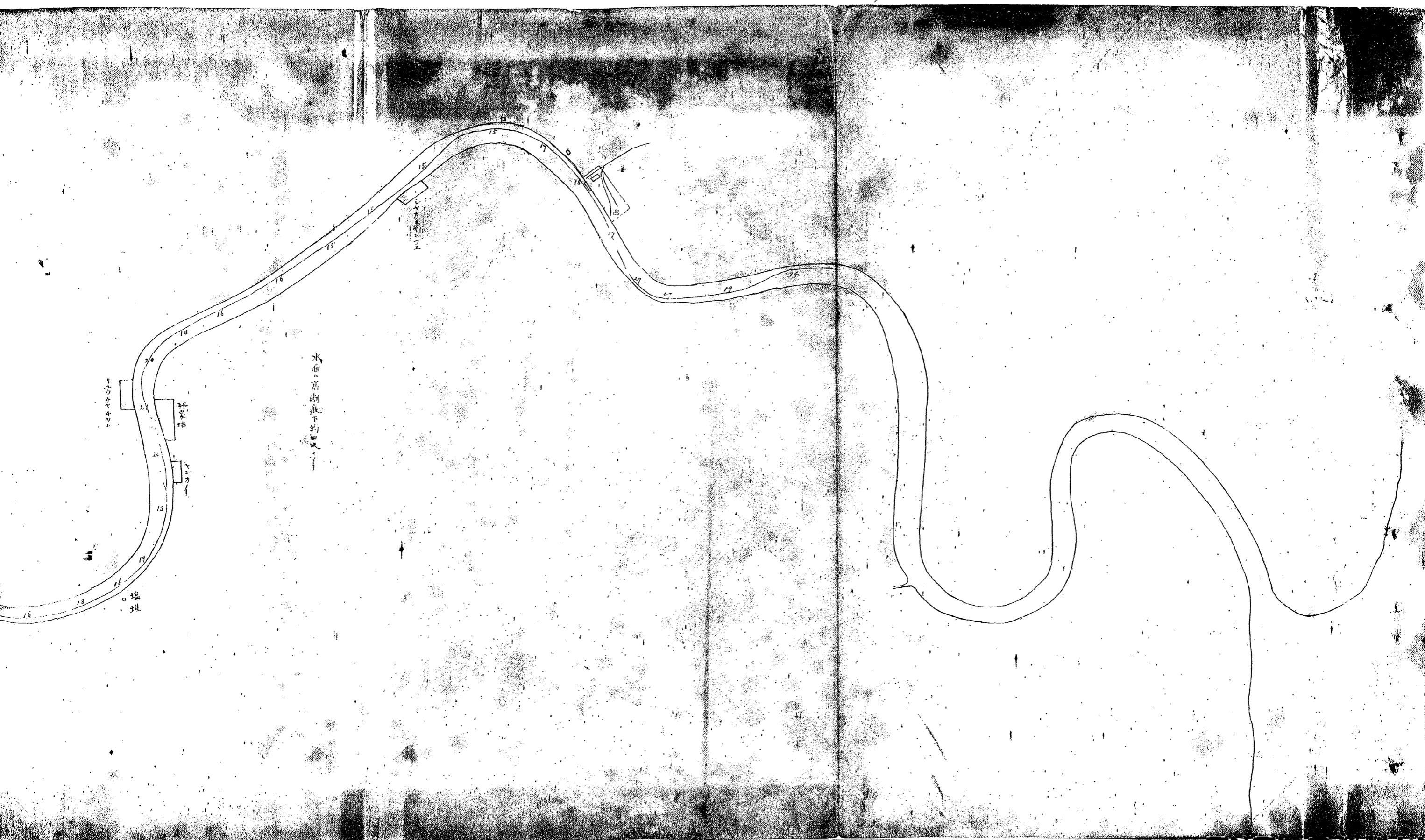
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1166
1167



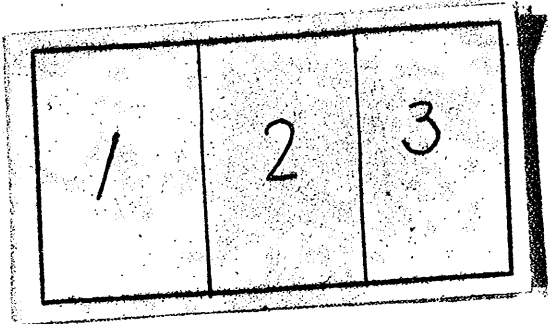
水面が高潮に下約四尺



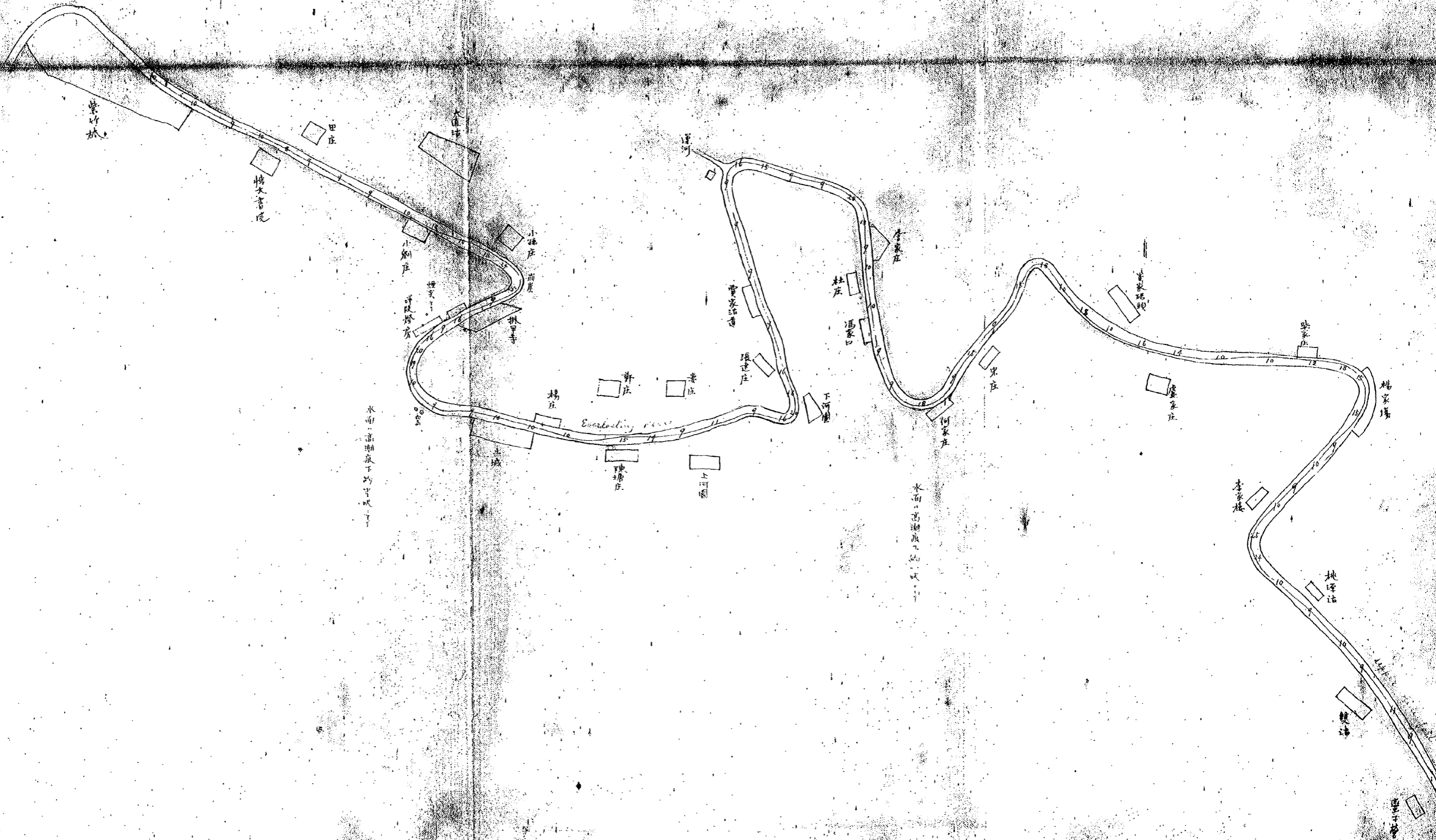
水面・葦湖下約四尺

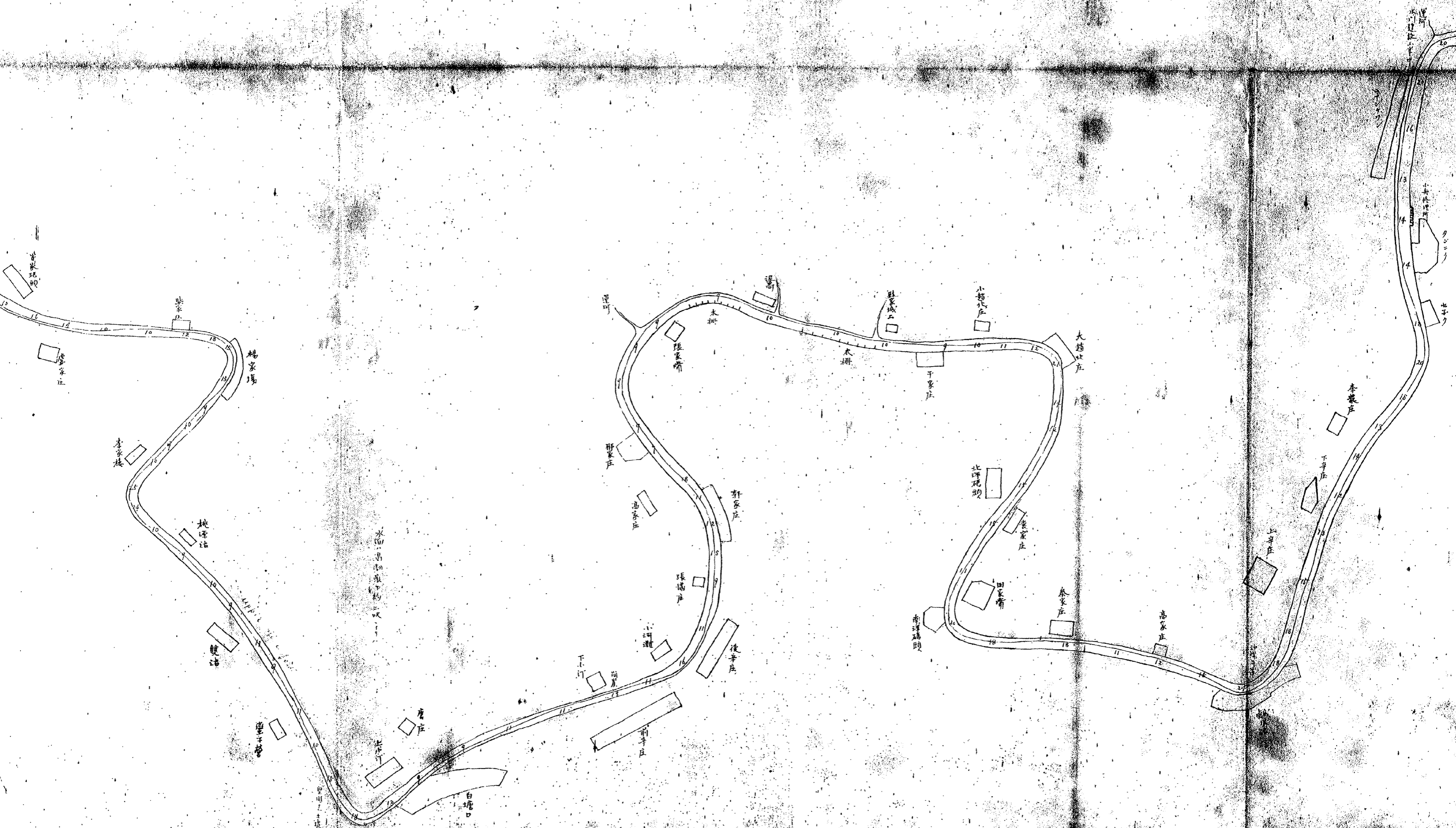
野家活
塩埴

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1168
1169
1170

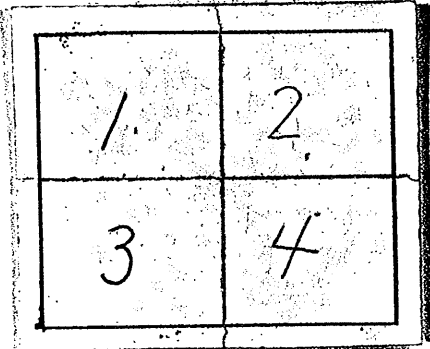






水面高潮下約三呎

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

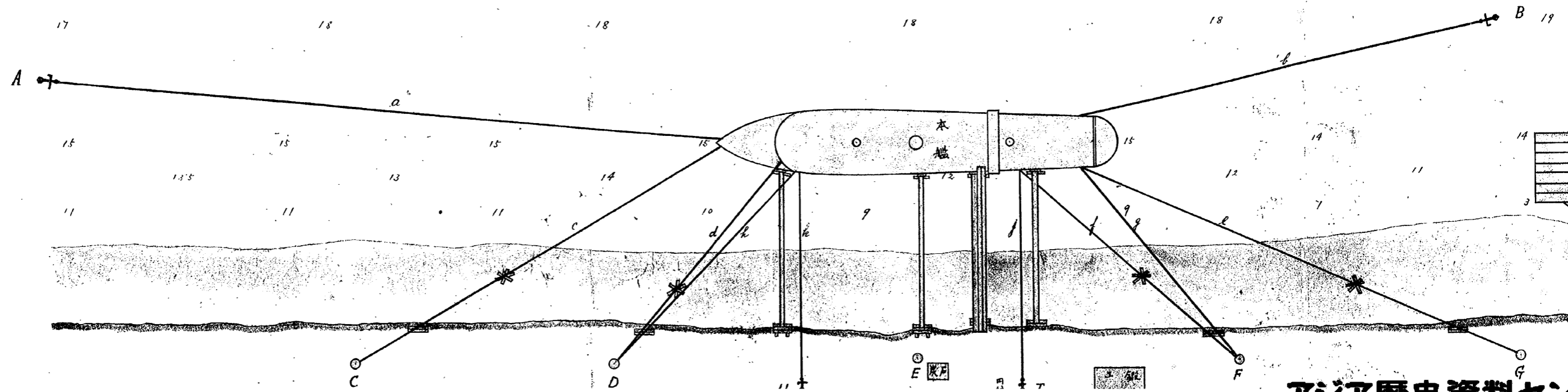
1171
1172

1173
1174

軍艦鳥海越冬準備留番

船首方位南東
縮尺五百分一
深淺用尺

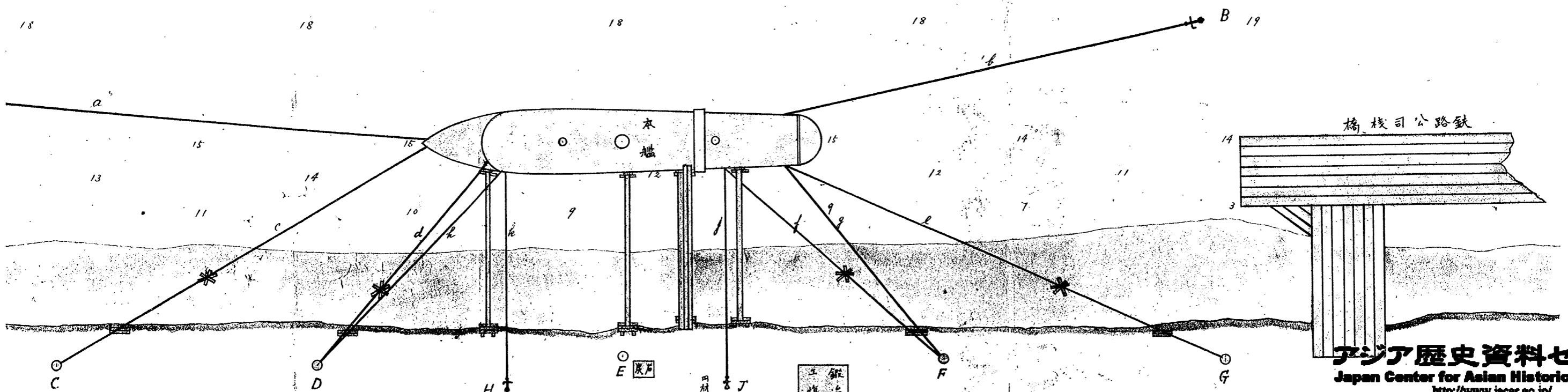
- A 右舷錨
 - B 左舷錨
 - C 擊止杭
 - D 全右
 - E 全右
 - F 全右
 - G 全右
 - H 右舷錨約半噸(舊日連備付)
 - T 右舷錨約三噸(舊滿珠備付)
 - a 右舷錨鎖四節
 - b 左舷錨鎖二節
 - c 左舷錨鎖三節
 - d 至三三三錨鎖二節
 - e 全三節
 - f 全三節
 - g 三吋鉄線網
 - h 全三吋鉄線網
 - i 全三吋鉄線網
- 陸軍省海軍省所屬各工廠製造品
陸軍省海軍省所屬各工廠製造品
陸軍省海軍省所屬各工廠製造品



軍艦鳥海越冬準備繋留圖

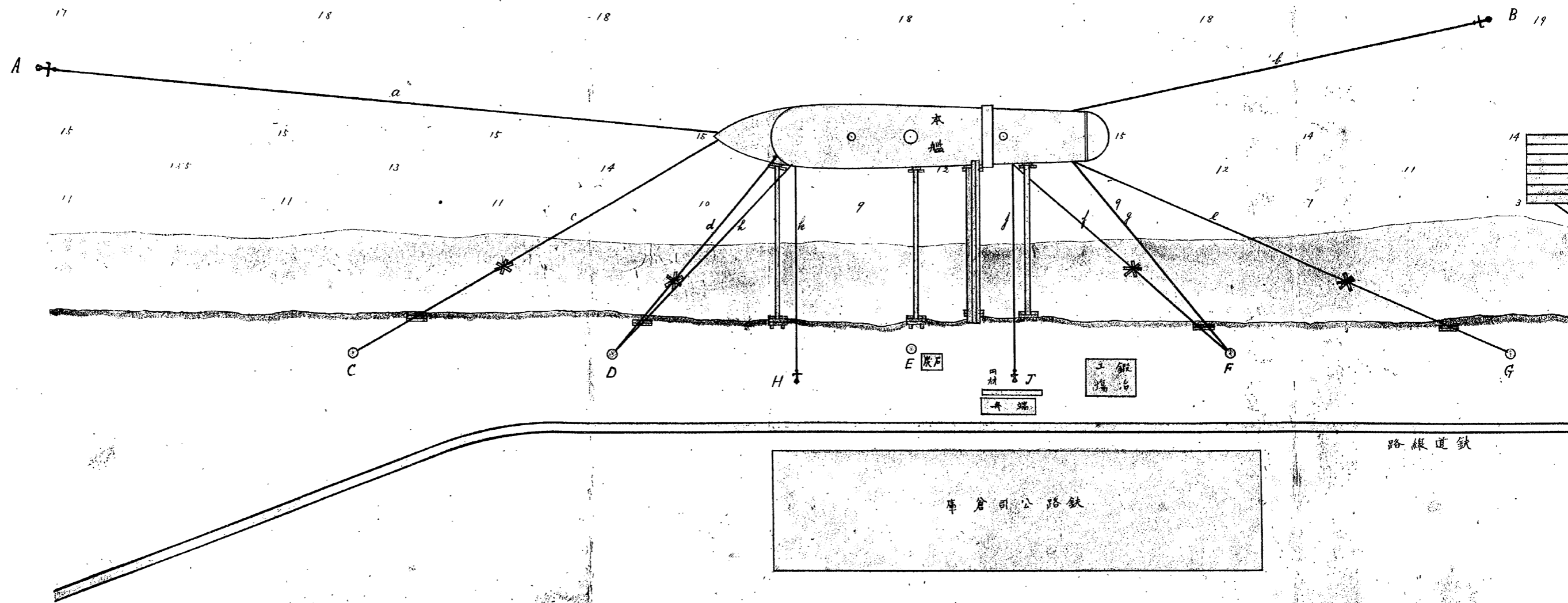
船首南緯
縮尺五百分一
深淺用尺

- A 右舷錨
 - B 左舷錨
 - C 擊止杭
 - D 全右
 - E 全右
 - F 全右
 - G 全右
 - H ストラップ錨約半噸(舊日連備付)
 - J ケーブル約三全一噸(舊滿珠備付)
 - a 右舷錨鎖四節
 - b 左舷錨鎖二節
 - c 左舷錨鎖三節
 - d 至三三三錨鎖二節
 - e 全三節
 - f 全三節
 - g 三吋鐵線網
 - h 三吋鐵線網
 - i 全
- 陸軍省造船廠借用
陸軍省造船廠借用



船首東
縮尺五百分一
深淺用尺

A 右舷錫
B 左舷錫
C 擊止杭
D 全右
E 全右
F 全右
G 全右
H 全右
I 全右
J 全右
K 全右
L 全右
M 全右
N 全右
O 全右
P 全右
Q 全右
R 全右
S 全右
T 全右
U 全右
V 全右
W 全右
X 全右
Y 全右
Z 全右
aa 全右
bb 全右
cc 全右
dd 全右
ee 全右
ff 全右
gg 全右
hh 全右
ii 全右
jj 全右
kk 全右
ll 全右
mm 全右
nn 全右
oo 全右
pp 全右
qq 全右
rr 全右
ss 全右
tt 全右
uu 全右
vv 全右
ww 全右
xx 全右
yy 全右
zz 全右
AAA 全右
BBB 全右
CCC 全右
DDD 全右
EEE 全右
FFF 全右
GGG 全右
HHH 全右
III 全右
JJJ 全右
KKK 全右
LLL 全右
MMM 全右
NNN 全右
OOO 全右
PPP 全右
QQQ 全右
RRR 全右
SSS 全右
TTT 全右
UUU 全右
VVV 全右
WWW 全右
XXX 全右
YYY 全右
ZZZ 全右
AAA 全右
BBB 全右
CCC 全右
DDD 全右
EEE 全右
FFF 全右
GGG 全右
HHH 全右
III 全右
JJJ 全右
KKK 全右
LLL 全右
MMM 全右
NNN 全右
OOO 全右
PPP 全右
QQQ 全右
RRR 全右
SSS 全右
TTT 全右
UUU 全右
VVV 全右
WWW 全右
XXX 全右
YYY 全右
ZZZ 全右

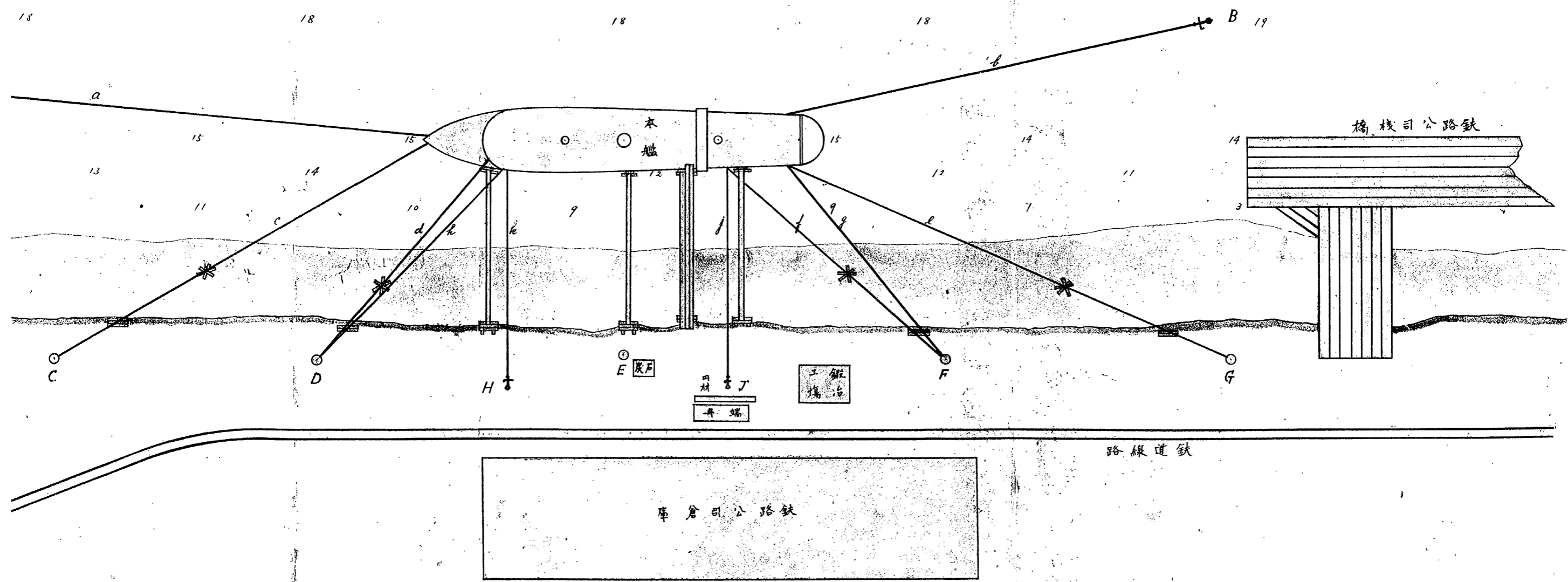


路線道鉄

庫倉司公路鉄

船首方接南東
縮尺五百分一
深淺用尺

- A 右舷錨
 - B 左舷錨
 - C 擊止抗
 - D 全右
 - E 全右
 - F 全右
 - G 全右
 - H 2.5噸錨約半噸(舊日遺備付)
 - J 約三噸(舊滿珠備付)
 - a 右舷錨鎖四節
 - b 左舷錨鎖三節
 - c 左舷錨鎖三節
 - d 左舷錨鎖二節
 - e 全
 - f 全
 - g 三吋鉄線綱
 - h 全
 - i 三吋鉄線綱
- 係保鑰字用鐵綱部需品庫備用
- 三吋 係保鑰船廠備用



軍令部

次長

第三局

軍務

軍務

軍務

供覽

雜

鳥情

情報

清國皇帝廢立、謠言一變、建儲ノ詔ト相成、度事ハ

曩ニ報告致置候通、ルカ其當時宮中ニ於テハ、横様ニ

聞シ、榮祿ノ語ル度ナリト云フヲ聞知、度ニ付、後聞ナカラ、及報告

ニ度

西太后ハ如何ニモシテ、現皇帝ヲ廢立セント、二六時中、考案シ

居ルモ、未ダ時機ヲ得ズ、光緒二十四年、モ、在、萬、將ニ終ラントスルニ

當リ、正月、三、廟、壇ノ祀、祭、寺、均ニク、皇帝ノ親、ヲ行ハセ、ル、ハ、キ、例

規、ル、ヨリ、其、時、コソ、好、機、失リ、可カラ、スト、ト、シ、十二、月、上、旬、ヨリ、皇、上、ノ、病

氣、未ダ、癒、ハ、サル、旨、ヲ、披、露、シ、着、キ、廢、立、ノ、準、備、ヲ、ナ、シ、ツ、ハ、アリ

過、般、西、太、后、ハ、榮、祿、一、人、ヲ、召、サ、シ、弥、ニ、廢、立、ヲ、實、行、セ、ン、旨、ヲ、申

1175

と聞てうれしきカハ崇禎ハ己ニ承知ノ事ナカラ實地ニ此活劇ヲ演
 せんとニ至ラハ諸外國ヨリ如何先テ涉ラテ試ムヤモ計ラレサルヲ知リ
 具上ヨリ西太后ニ言上セシニ太后モ一考ノ上共等ノ内情ハ崇禎ニ
 於テ篤ト探偵スヘキ旨御下命アリタリ崇禎モ此任務ニ就テハ
 良策ナキヲ以テ李鴻章ニ商議セシカ李爺モ進ニテ其任ニ當
 ラントノ意向ヲ示サリシニ

然ルニ李爺ハ今回兩廣總督ノ代任ヲ命セラレ出發期近キニ
 至リタルヲ以テ各國公使ハ其出發ノ前日李鴻章ヲ訪ヒ送別
 立方諺言ノ紛々スル慶立ノ事實ヲ問合セタルヨリ李爺ハ好機失
 ス可ラストナシ先ツ自分ハ慶立ノ實不臣ハ更ニ知ラサル旨ヲ答ヘ尚
 ホ各國公使ニ對シ若シ實際此事アラハ貴國等ハ如何先法ヲ
 以テ之ニ処スルヤト又問セシニ英國公使ハ先ツ曰フ聞キ貴國ノ事ヲ
 貴國ニ於テ慶断セラルニ於テハ我國等又何ノ関スル事アラシヤ唯

以後新皇帝アルヲ認メサルト云ヒ各國公使モ畧ホ同様ノ意向
 ナリトヨリホ子公節ハ之ヲ榮祿ニ告ケ其翌日ヲ以テ出立セタルカ榮祿
 ハ到底通常手段ニヨリテハ太后ノ意志ヲ動ス能ハサルヲ知り
 特使自身參内奏シ各ヲナサス太后ノ最モ親任アル宗壽ト商議
 シ宗壽ヲ宮中ニ遣ハシ目下廢立ノ得ザルニ非サルヲ説カシメタル
 ヲリ太后モ詮方ナリ遂ニ廢立ノ事ヲ延期ト先ツ建儲ト確定セシメ
 ルナリト歟等ノ消息ハ諸大臣中ニテモ知ルモノ少ク二十四日ノ召見ハ全ク
 内禪ノ發表トノ心思ヒ參内シテ果外建儲ノ詔ナリトヨリ母舊
 帝漢巨魁ハ剛毅趙舒翹等ハ大ニ失望ノ色アリ傍人ニ向ヒ
 何故ニ之證立セラレザリシヤ杯 詔リタリト云フ年号改稱ノ事モ一
 時既ニ制定セラレタルモ右ノ如キ内情アルヲ以テ今ヤ重解ニ帰シ
 現皇帝ハ虛位ナカラ猶ホ九五ノ尊ヲ持シ居ラレ意志ニモアラサル
 曰奇の上諭ハ日々發布セラレツアルナリ

一冊
 一冊

皇儲タル大阿哥傳傷ハ實際當年十五歳ノ齡ヲ迎ヘ一身幹甚々
高ク口唇ノ尖起ニ多クニシテ太后ノ慈愛甚々石子ニト云フ

近來海外在苗ノ清國人ハ勿論上海湖南等ノ地方ヨリ現皇帝

ノ親政ヲ請フ者ノ電報頻ク到達ニ總理衙門ハ之ヲ抑苗ニテ

悉ク上聞ニ達セスト云フ又總辦電報事務ノ盛宣懷及上海

ノ電報局長等ハ其等ノ電報ヲ取扱ヒタルカ不都合ナリトテ

目下彈劾セラレツ、アリト云フ

明治三十三年二月九日於塘沽

鳥海艦長高橋助一郎



海軍大臣 小幡 權兵衛 殿